

科目コード	R5001	授業科目名	建学の精神					
履修区分	必修	開講期	1年	前期	授業回数	15回	単位数	2単位
担当者	古澤 敏昭・和田 藍子・近藤 貞子・田中 八千世							
授業の概要	【古澤 敏昭(8回)】「心技一体」とは、知識及び技術・技能は勿論、精神的にも豊かで健全なる身体を備え、心・技・体が一体となって成長することにより、三位渾然とした幅広い知識と能力、博愛精神・人間愛に満ちた慈愛を持ち、協し創造する喜びと感動を求めて努力を惜しまない人材となりうることを学ぶ。 【和田 宗汎(4回)〈茶道〉】誰でも持っている優しい心づかい、感動する心、そうした心をより豊かに育み、人間としての感性を大切に自分を高めていくことを目的として、広島で四百年近くその道統が守り伝えられている上田宗箇流茶道を通じて、茶の湯の心の在り方、その作法を学ぶ。 【近藤 貞子(3回)〈華道〉】伝統文化として代々受け継がれてきた華道を通して、自然の中で育まれている植物を観察し出生を知り、歴代宗匠の教の中から和の精神を学ぶ。							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける ②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける ③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける ④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける ※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力						◎	—
到達目標	より良い技術とは技術力のみではなく、それを用いる人とその健康な体が調和されて社会にとって貢献しうる技術となることを体系的に理解し、説明することができる。							
履修上の注意事項	各教員によって授業形態が異なり、「茶道」および「華道」については少人数での実施が望ましいため、クラス編成をした上での授業となります。詳細は別途指示します。							
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修	
	第1回	本質のとらえ方:・本質のとらえ方の体験学習 ・考え方のポイント(本質とは／中心とは／最重要点とは)(古澤)					レポート課題または講義の復習(60分)	
	第2回	問題点の発見と手法:各種の手法と考え方(古澤)					レポート課題または講義の復習(60分)	
	第3回	問題点のとらえ方:・現状分析 ・あるべき姿(仮説の設定)(古澤)					レポート課題または講義の復習(60分)	
	第4回	問題点のとらえ方:問題点の指摘(あるべき姿と現状分析によるギャップ)(古澤)					レポート課題または講義の復習(60分)	
	第5回	問題点のとらえ方:改善方法により「ムダ・ムリ・ムラ」を意識する(古澤)					レポート課題または講義の復習(60分)	
	第6回	問題を改善するのは人である:・精神状態、考え方 ・生産性とは(精神状態／ヨーロッパ生産性機構)(古澤)					レポート課題または講義の復習(60分)	
	第7回	人間は考え方により行動がある:人間性とは／社会貢献とは／創造とは／豊かな心とは／幸とは(古澤)					レポート課題または講義の復習(60分)	
	第8回	人間関係／コミュニケーション:・報告、連絡、相談(ホウ、レン、ソウ) ・調和、啓発、創造 ・組織とは(古澤)					レポート課題または講義の復習(60分)	
	第9回	いけ花の成立(近藤)					レポート課題または講義の復習(60分)	
	第10回	華道が伝統文化(生活文化)として受継いできたもの(近藤)					レポート課題または講義の復習(60分)	
	第11回	現代の生活環境といけ花(近藤)					レポート課題または講義の復習(60分)	
	第12回	はじめに 茶道について 茶の湯の心 人への思いやり もてなしの心と工夫・知恵 お茶の効用(和田)					レポート課題または講義の復習(60分)	
	第13回	茶道とのふれあい 茶室での立ち居振る舞い 基本姿勢 あいさつ 客の心構え・作法 もてなす側の心配り(和田)					レポート課題または講義の復習(60分)	
	第14回	席入り 客作法 お茶を点てる 点て出し作法 お菓子・お茶をいただく(和田)					レポート課題または講義の復習(60分)	
	第15回	まとめ お茶会を開く お茶会に参加する(和田)					レポート課題または講義の復習(60分)	
成績評価方法	レポート100% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書	書名・著者(出版社)						ISBNコード	
	使用しない							
参考書								
教員からのメッセージ	【和田】希望者には和風堂の見学をお勧めします(要予約)。※茶道(演習)の際には必ず白のソックスを持参する事。 【近藤】植物をよく観察すること。							
教員との連絡方法								
実務経験のある教員								

科目コード	R5002	授業科目名	心理学					
履修区分	必修	開講期	1年	前期	授業回数	15回	単位数	1単位
担当者	河原 剛							
授業の概要	多くの実践領域で用いられている基本的な心理学領域の知見を、最新の研究成果とともに概説する。心理検査や心理学実験のデモンストレーションなどの体験的な内容にも取り組み、実感を伴う知識を提供する。							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける						○	
	②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける						○	
	③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける						◎	
	④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける						△	
	※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							
到達目標	① 科学的な知見に基づいた、心理学の基礎的な知識を習得する ② 日常生活で起きる現象を心理学的に説明できる							
履修上の注意事項	① ほかの生徒の学習機会を損なう行為（主に私語）を禁止する。場合により退出要求や、評価の減点等の処置を行う。 ② 講義で配布する資料や文章等をインターネット上に公開することを禁止する。 ③ 遅刻・早退は避ける。							
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修	
	第1回	オリエンテーション(心理学とは？)					次回までに身の回りにおける錯覚に関する事象を観察する(60分)	
	第2回	知覚心理学 視覚における知覚心理学の理論について 錯視、錯覚について					次回までに人間における学習とは何かをイメージしておくこと(60分)	
	第3回	学習心理学(1) レスポナデント条件づけについて					自分の身の回りにおけるレスポナデント条件付けを探す(60分)	
	第4回	学習心理学(2) オペラント条件について					自分の身の回りにおけるオペラント条件付けを探す(60分)	
	第5回	学習心理学(3) 人間にみられる特殊な学習について					自分の習慣・癖になっている行動を探す(60分)	
	第6回	認知心理学(1) 記憶のメカニズムについて					記憶にはどんな種類があるかを再確認しておく(60分)	
	第7回	認知心理学(2) 共感覚・アフォーダンスについて					身の回りのアフォーダンスを探す(60分)	
	第8回	発達心理学(1) 発達心理学の基礎的理解について					自身の発達段階、発達課題を見直す(60分)	
	第9回	発達心理学(2) 発達段階と生涯発達、乳幼児期における発達課題について					乳幼児期に直面すると考えられる発達課題をイメージする(60分)	
	第10回	発達心理学(3) 児童期の発達課題について					児童期に直面すると考えられる発達課題をイメージする(60分)	
	第11回	感情心理学 感情はどのように生じるのか					自分の感情体験について意識する(60分)	
	第12回	社会心理学(1) 偏見はなぜ生まれるのか、人を説得するには					偏見について考えてみること(60分)	
	第13回	社会心理学(2) 周りの人と同じような行動をとってしまうのはなぜ(権威への服従、同調行動)					自身取りがちな同調行動を振り返る(60分)	
	第14回	個人差心理学 人の性格は測れるのか					自身の性格をアセスメントする(60分)	
	第15回	臨床心理学 様々な心理療法について					紹介した心理療法が医療現場でどのように扱われるかをイメージする(60分)	
成績評価方法	期末試験:60% 毎回の授業の最後に課されるコメントシート:40% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書	書名・著者(出版社)						ISBNコード	
参考書	ゼロからはじめる心理学・入門 金沢 創 他(有斐閣)						9784641150225	
教員からのメッセージ	授業中は教員の言葉を一字一句メモする必要はなく、話を聞くことや内容について考えを深めることに集中する。日常生活の中で、講義中に学んだことを他者と議論することが望ましい。 オフィスアワー:水曜日12時～14時 連絡先:t26a_ur02ki@hotmail.com							
教員との連絡方法	①受講票で質問 ②講義前後に教室か講師室にて直接質問 ③メール 講義時以外は基本的に在学していないので、上記の方法で隙を見て気軽に話しかけるように。							
実務経験のある教員	公認心理師として病院臨床、教育機関でのカウンセリングなどで様々な人の心の声に耳を傾けてきた教員が担当します。当該授業を通して臨床心理学の知見に触れ、人が生きていくうえで出会う様々な課題や生きにくさなどを、共に考え議論することで、“生きた教養”を身に付けることを目指す授業です。							

科目コード	R5003	授業科目名	ヒロシマのこころ					
履修区分	選択	開講期	1年	前期	授業回数	15回	単位数	1単位
担当者	宮崎 洋幸・河野 修興・古澤 敏昭・田丸 政男・藤村 昌彦・甲田 宗嗣・上川 紀道・馬屋原 康高・平尾 文・山本 カヨ子・三保 浩一郎・佛圓 弘修・湯浅 恭正							
授業の概要	広島県には、様々な歴史的な視座がある。その中で被爆地として「平和」を希求する政令としての社会的役割は非常に大きい。広島から巣立つ医療人として、たくさんの対象者・患者と接する機会を持つ。その歴史的視座から、対象者の生活を捉えるための幅広い学士知己を吸収することで、生命の尊厳や人間尊重を基本とした実践ができる能力の肝要をはかる。広島の地ならではの観点から、人間を幅広く理解し、人を思いやる心と専門技術を統合する医療人としての価値観を学ぶ。							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける ②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける ③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける ④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける ※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)＝卒業までに身に付けるべき資質・能力							◎ △ ○ ○
到達目標	社会人、医療人としての心構えが理解できる。 広島県の歴史的な視座に基づいた医療的関連事項について知る。 患者を取り巻く状況と医療の関連性がある地域性について理解する。 広島での地で医療を学ぶことを意識しその意義や意味を考える。							
履修上の注意事項	講師の先生の講義内容により授業形態が異なります。それぞれの指示を確認した上で受講して下さい。 第6回 平和学習のフィールドワークは学外講義(広島平和記念資料館見学)です。詳細は掲示でお知らせします。							
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修	
	第1回	オリエンテーション・広島県の心に学ぶ医療従事者としての価値観(宮崎)					受講後、5つの価値観について考察する(60分)	
	第2回	スポーツと健康(上川)					解剖学(筋・骨・靱帯など)について復習しておく(60分)	
	第3回	広島県の健康寿命延伸への挑戦～ヘルスプロモーションの視点から～(藤村)					健康寿命と平均寿命の違いについて調べる(60分)	
	第4回	広島における健康活動の取り組み(馬屋原)					事後学修:講義のまとめやレポート課題(60分)	
	第5回	広島県における障害児教育の現状について(平尾)					障害を持つ子どもの教育についてイメージをしておく(60分)。	
	第6回	平和学習のフィールドワーク(学外講義)(甲田)					課題レポートの作成(60分)	
	第7回	原爆の健康被害と旧大久島毒ガス製造工場従業員に発症した健康被害について(未定)					課題レポートの作成(60分)	
	第8回	ALS恐るるに足らず～歯科医が語るALSな暮らし～(三保)					筋萎縮性側索硬化症について予習しておく(60分)	
	第9回	障害のある人びとへのまなざしと平和の世界(湯浅)					受講後、講義の論点を参考にして「障害のある人々と平和・戦争」をめぐって文献・新聞等をもとに考察する(60分)	
	第10回	原爆被爆体験Ⅰ(古澤)					課題レポートの作成(60分)	
	第11回	原爆被爆体験Ⅱ(古澤)					課題レポートの作成(60分)	
	第12回	看護のこころとチームケア(山本)					課題レポートの作成(60分)	
	第13回	原爆被爆時の看護体験を今に引き継ぐ先輩たち(山本)					課題レポートの作成(60分)	
	第14回	アニマルセラピーの実際(田丸)					課題レポートの作成(60分)	
	第15回	平和教育の実際～人権の視点から～(佛圓)					課題レポートの作成(60分)	
成績評価方法	レポート 100%:成績判定は、毎回講義後に提出するレポート課題により行う。 授業ごとに提出されたレポート課題を採点し、その平均点で判定する。 ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書	書名・著者(出版社)						ISBNコード	
	必要に応じてプリント類を配布							
参考書								
教員からのメッセージ	各講義の内容から、広島と関連する視点を見つけて、社会生活にどの様につながっていくかを考えながら学習を進めて下さい。講義担当は、OT専攻の宮崎です。確認したいことがあれば、研究室(研究棟303)に入室または下記に連絡ください。							
教員との連絡方法	講義担当教員:メール連絡先: miyazhiroy@hcu.ac.jp(宮崎)							
実務経験のある教員								

科目コード	R5004	授業科目名	生命科学概論					
履修区分	選択	開講期	1年	前期	授業回数	15回	単位数	1単位
担当者	加藤 みわ子							
授業の概要	医学は広義の生命科学の応用分野である。したがって、生命科学の基礎は、医療に従事する者にとっては欠かせない知識である。本講では、生命科学を“生物の生命活動に関わる科学”と定義として、ヒトの成り立ちや、生命について考える。その中で、ヒトの示すいろいろな刺激に対する反応や行動のみならず、ヒトが生来持っている習性や行動などを、脳の多種多様な働きを中心に考えながら学ぶ。							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける ②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける ③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける ④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける ※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							○ △ ◎ ○
到達目標	生命の神秘、尊厳について、深い洞察を持つ。 遺伝子の基礎と機能について理解して、説明ができる。 ヒトの脳が織りなす機能について理解をして、概説ができる。							
履修上の注意事項	適宜、プリントを配付する。 必ず講義を聴くこと。私語や他ごとに興じている者、寝ている者は欠席扱いとする。							
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修	
	第1回	オリエンテーション					高等学校までに学習した生物学を復習しておく(60分)	
	第2回	生命科学の概要					授業の振り返りと高等学校までの生物学の確認をおこなう(60分)	
	第3回	生命科学を学ぶ為の基礎知識(1) 細胞と遺伝子					細胞の構造と機能について復習をする(60分)	
	第4回	生命科学を学ぶ為の基礎知識(2) 遺伝子研究の歴史					講義内で紹介した関連資料などを閲覧、視聴する(60分)	
	第5回	生命とDNA					講義内で紹介した関連資料などを閲覧、視聴すし考察する(60分)	
	第6回	DNAと細胞分裂					細胞分裂の成り立ちについて復習をする(60分)	
	第7回	遺伝子組替え					身近にある遺伝子組み換えに関連する商品を調べて、自分との関わりを考える(60分)	
	第8回	遺伝子組換え技術とゲノム編集					遺伝子組み換え技術とゲノム編集の違いについて復習する(60分)	
	第9回	ゲノム編集技術と医療					現行の遺伝子医療について調べてまとめる(60分)	
	第10回	再生医療とゲノム創薬					遺伝子治療と遺伝子医療の違いについて調べる(60分)	
	第11回	再生医療の実際					講義内で紹介した関連資料などを閲覧、視聴し考察する(60分)	
	第12回	ゲノム医療実用化の現状					現行のゲノム医療について調べてまとめる(60分)	
	第13回	出生前診断					講義内で紹介した関連資料などを閲覧、視聴し考察する(60分)	
	第14回	生命と科学～社会的な生き物:アニマルセラピー					人類と他の生き物との関わりについて復習する(60分)	
	第15回	生命と進化～母子の愛着行動～					進化の過程と遺伝的な変化について復習する(60分)	
成績評価方法	期末試験 65% 毎回の講義の後に課すレポート 35% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書	書名・著者(出版社)						ISBNコード	
	使用しない。							
参考書								
教員からのメッセージ	授業中は、配付資料を利用してノートをすること。 プリントは必ず、ファイリングをしておくこと。 参考書を参考にしながら、必ず復習をすること。(疑問があれば、担当教員に質問してください。)							
教員との連絡方法	まず、メールで連絡してください。その後、オフィスパワーを利用して、506研究室へ来てください。							
実務経験のある教員	病院等に於いて臨床経験のある教員が、実臨床に沿って講義を行う。							

科目コード	R5005	授業科目名	哲学					
履修区分	選択	開講期	1年	後期	授業回数	15回	単位数	1単位
担当者	関村 誠							
授業の概要	人間が生きていること、死ぬということはいかなることか、人間が自由であるとはいかなることか、こうした人間存在そのものについての問題を、あらためて自分自身の問題として問い、古今の哲学者の思想を手がかりに考察する。それを通じて、自分自身の生き方をその可能性において見つめ直すきっかけを探るとともに、人間の生死をめぐって、あるいは個々人の自己決定をめぐって生じている現代社会の諸問題を原理的な次元から考察しうる視座を身につける。							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける							○
	②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける							—
	③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける							◎
	④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける							—
	※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							
到達目標	過去の哲学者の言葉を理解するだけでなく、そこからさらに自分の生き方を見つめ直し、自分の問題意識や考えを表明できるようにする。人間や世界について、これまで当たり前とみなしていた考えとは異なった観点からも思索できるようにする。							
履修上の注意事項	レポート提出の期限を守ってください。							
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修	
	第1回	哲学とは何か ・知への愛としての哲学					授業資料を読み、内容を把握しておく。(40分)	
	第2回	哲学はどこから始まるのか ・「驚き」からの思索					授業資料を読み、内容を把握しておく。(40分)	
	第3回	世界はどのようにできているか ・「根源」の探究と「観る」ことの重要性					授業資料を読み、内容を把握しておく。(40分)	
	第4回	空間のとらえ方と世界の見方 ・デカルトにおける「私」と遠近法の意味					授業資料を読み、内容を把握しておく。(40分)	
	第5回	「現実」とは何か ・「対象のあるがまま」と「目に映るがまま」の違い					授業資料を読み、内容を把握しておく。(40分)	
	第6回	生物と幼児から見た世界 ・「環世界」について					授業資料を読み、内容を把握しておく。(40分)	
	第7回	人間の偉大さと惨めさ ・ストア派の哲学者の言葉を読む					授業資料を読み、内容を把握しておく。(40分)	
	第8回	透明人間になれたら ・プラトン『国家』における「正しさ」の問題					授業資料を読み、内容を把握しておく。(40分)	
	第9回	模倣と「うつし」 ・「移し」「写し」「映し」について					授業資料を読み、内容を把握しておく。(40分)	
	第10回	仮面と顔 ・面の機能 ・仮面をかぶった生					授業資料を読み、内容を把握しておく。(40分)	
	第11回	現実の世界と夢の世界 ・プラトンによる「洞窟の比喩」を読む					授業資料を読み、内容を把握しておく。(40分)	
	第12回	「かげ」の問題 ・谷崎潤一郎『陰翳礼讃』を読む					授業資料を読み、内容を把握しておく。(40分)	
	第13回	日本人と「間」の感性 ・自己と他者の関係について					授業資料を読み、内容を把握しておく。(40分)	
	第14回	「もの」と「こと」 ・日本語の「もの」と「こと」という表現の違いに着目					授業資料を読み、内容を把握しておく。(40分)	
	第15回	まとめ ・これまでの授業内容を振り返る					授業資料を読み、内容を把握しておく。(40分)	
成績評価方法	各回の課題レポート45%、最終レポート55%							
	ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書	書名・著者(出版社)						ISBNコード	
	資料配布							
参考書	各回の資料に記します。							
教員からのメッセージ	教科書は使用せず、資料を配布します。参考書はそのつど紹介します。							
教員との連絡方法	質問や相談は授業の後に受け付けます。							
実務経験のある教員								

科目コード	R5006	授業科目名	医療と食					
履修区分	選択	開講期	1年	後期	授業回数	15回	単位数	1単位
担当者	村本 圭子・三好 真理							
授業の概要	人間が生きていくうえで必要不可欠な「食」には、健康を害する問題点も今日、多く挙げられる。本講義では保健・医療・福祉の担い手である医療識者として、医療を支える「食」のあるべき姿や正しい知識を学修する。本学の精神「心技一体」を実践するためにも、先人たちの残した食文化やこれからの子供たちを育む食育を学び、自らの資質を高めることは重要である。自らの健康を支える「食事」を実践しつつ、医療の現場で活用できる内容を学ぶ。11～15週は、微生物と医療について講述。生活の中の微生物から病原微生物までの概略と、各自の健康管理、医療現場での衛生管理の大切さについて述べる。							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける							○
	②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける							○
	③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける							◎
	④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける							○
	※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							
到達目標	食文化、「食」の本来の役割、微生物との関わりなどを、医療現場で活用できる知識を学修し、実践する力をつける。							
履修上の注意事項	毎回出される資料を整理して、内容を理解すること。新聞などで情報を入手し、「食」に関することに興味を持つこと。提出物は期限を守って下さい。							
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修	
	第1回	人類は何を食べて生きてきたのか？ (何の為に食べるのか？食べる方法、食物禁忌)(村本)					昔から食べられている物について考えておく。人生を幸せにするには何が大切なのか考えておく。	
	第2回	平均寿命世界一、日本人の食事は？ (日本料理の変遷①:原始から室町時代)(村本)					日本型食生活について、どのような内容なのか考えておく。	
	第3回	健康寿命はなぜ、イマイチなのか？ (日本料理の変遷②:安土・桃山から江戸時代)(村本)					自分の食事で好き嫌いがあるか、なぜ食べれないのか、なぜ好きなか考えておく。	
	第4回	西洋料理の変遷(上) (テーブルマナーの歴史)(村本)					好きな西洋料理は何か、また作れる西洋料理について考えておく。	
	第5回	西洋料理の変遷(下) (スローフードの意義や現代の取り組み)(村本)					西洋料理の特徴や特に良いと思う事を調べておく。	
	第6回	健康志向の中国料理の変遷(上) (医食同源、陰陽道)(村本)					自分かよく食べる中国料理や自分で作れる中国料理について調べておく。	
	第7回	おいしく食べる中国料理の変遷(下) (宮廷料理、現代の中国料理系統)(村本)					中国料理の優れていると思われることを考えておく。	
	第8回	食卓の変化の影響はどこに？ (食育について、日本の食糧事情、食の安全)(村本)					体と心を育む食事について、次の世代を支える子どもたちに伝えたいことを考えておく。	
	第9回	おいしい病院食とは (病院食の概要、食物アレルギーについて)(村本)					病院食の意義、あり方、役割について考えておく。	
	第10回	生活習慣病予防と食事のポイント (食事療法の概要、バランスの良い食事とは)(村本)					日々の食生活で大事にしたいことを考えておく。	
	第11回	食と医療と微生物 (私たちの暮らしは微生物とともにある)(三好)					日頃食べている発酵食品を記録して、なぜ食べるのか考えておく。配布プリントの復習、腸内細菌叢を理解する	
	第12回	食中毒はなぜ起こるのか？ (病原性大腸菌とノロウイルス)(三好)					医療関連施設で微生物由来の食中毒が発生するの調べてみる。細菌性食中毒とウイルス性食中毒の違いを理解する。	
	第13回	感染症と付き合うための基礎知識 (感染症の成立と予防法)(三好)					日常生活で、感染症を予防するために何をすればよいのか考えておく。個人でできる感染症予防対策を復習。	
	第14回	感染症予防のための消毒、滅菌の基礎 (物理的消毒法と化学的消毒法)(三好)					日常生活で実施している殺菌・消毒法についてまとめておく。臨床に必要な消毒薬の特徴を復習。	
	第15回	医療現場で注意をしたい衛生管理 (医療現場に5S対策を取り入れる意義)(三好)					医療関連感染がなぜ起こるのか考えておく。医療現場での衛生管理を理解して、日常生活で生かせるように努力すること。	
成績評価方法	事後課題20%、期末試験30%、最終レポート20%、(1～10週の内容) 授業内ワークシート30%(11～15週) ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書	書名・著者(出版社)						ISBNコード	
	資料を配付する。							
参考書	食品成分表2023年版の資料編(女子栄養大学出版部)							
教員からのメッセージ	講義では概略になりますので、興味のある分野については、さらに内容を掘り下げて学習されることをお勧めします。 また、健康を支える食事を日々、実践されるよう期待します。							
教員との連絡方法	教務課に連絡してください。							
実務経験のある教員	調理師養成学校、看護師養成学校、介護福祉士養成学校で管理栄養士として、また、高等学校の家庭科で栄養学の内容を理解させ、グループワークや調理実習を通して、健康を支える食事を考えさせてきた経験から、食事の整え方や楽しむ方法を実践し、医療の現場で正しい知識を具体的に説明する力を身に付けることを目指す授業を行います。							

科目コード	R5007	授業科目名	法と人権					
履修区分	必修	開講期	1年	後期	授業回数	15回	単位数	1単位
担当者	大田 晋							
授業の概要	我われは、社会に生きている限り何らかのルールの中で生きている。そのルールこそが「法」であり、共通の約束事である。人権という「人としての権利、個人としての権利」を保障するための基本となる法は「憲法」である。講義では、はじめに法全般におけるものの考え方、体系、法および法律の基礎知識を学び、次にそれらの理解と知識のもとに、法体系の最高位にあって「人権＝基本的人権」を規定している「憲法」を詳しく学ぶ。							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける							○
	②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける							—
	③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける							◎
	④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける							○
	※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)＝卒業までに身に付けるべき資質・能力							
到達目標	人の命と生活に深く関わる医療専門職(医師、看護師、OT・PTなど)は、職務を遂行するに当たって他の職業以上に法的責任を意識し、「人と人を分け隔てなく尊重する」という基本的心構えが求められる。法や法律は嫌いとか苦手という先入観から脱却し、社会人としてさらに医療専門職として自分の行動の法的意味(責務)を考えることのできる人に成長して欲しい。							
履修上の注意事項	欠席は厳禁。配布する講義レジュメプリントをもとに自分でノートを作成することを履修・受講の条件とする。							
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修	
	第1回	講義のイントロ(講義の概要、講義の狙いと目標、講義の進め方、ノートの作り方など)					A4判ノート(40枚)とそこにプリントを貼り付ける冊を用意する。この科目は復習が極めて重要なのでその日のうちに復習をする。また質問はノートにメモしておく。60分	
	第2回	「法」とはなにか～法の意味・役割、法と社会・国家、法と人権					講義内容を復習し、特に今まであまり意識しなかった法や法律の意味・役割をノートにまとめてみる。60分。	
	第3回	法の分類と体系					法と言われるものは我々の日常生活の回りにあることを感じ取り、その全体像がどんなものかを自分でノートに書いてみる。60分。	
	第4回	法律と社会(国民生活)					法の中でも法律と呼ばれるものが我々の生活に特に密接にかかわっていることを確認する。復習60分。	
	第5回	刑法の基礎知識					法のイメージとしてすく頃に浮かぶ刑法について配布プリントをもとに復習し、ノートを整理する。60分。	
	第6回	民法の基礎知識					日々の生活に最もかかわっている民法を講義で習った事例を復習しながら自分でも具体的な事例を考えてみる。60分。	
	第7回	医療と法律					治療、療養、リハビリを含む医療の分野におけるさまざまな法律の体系図を自分で書いてみる。60分。	
	第8回	憲法～概要、意味、役割					憲法条文集を持参すること。事前にひと通り憲法の目次と条文に目を通し、憲法の感じをつかんでおくこと。また、講義ノートを自分なりに整理する。60分。	
	第9回	憲法～制定の歴史					憲法はその作られた背景や手続きが非常に重要である。プリントを自分なりにノートに写し取ってしっかり理解する。60分。	
	第10回	憲法～国民主権					憲法の三つの基本原理の一つである国民主権に関する憲法上の記述(前文と条文)をノートに書き出してみる。60分。	
	第11回	憲法～基本的人権(その1)					基本的人権の内容を復習し、関係条文をノートに書いてみる。60分。	
	第12回	憲法～基本的人権(その2)					前回の講義を復習し、基本的人権の関係条文をノートに書いてみる。60分。	
	第13回	憲法～平和主義(戦争放棄)					今日の大きな問題となっているロシアのウクライナ侵略といった現実を頭に置きながら、現在の憲法の問題点を自分なりにノートにまとめる。60分。	
	第14回	国家統治機構～その1(天皇、国会、裁判所)					2回にわたって勉強する日本と統治機構(国家組織)のうち今日学んだ部分を自分なりにノートにまとめてみる。60分。	
	第15回	国家統治機構～その2(内閣・行政、財政、地方自治)					わが国の国家統治機構について前回の講義分も含む全体のまとめをノートに書いてみる。60分	
成績評価方法	期末試験を実施する							
	ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書	書名・著者(出版社)						ISBNコード	
	『日本国憲法』条文集(童話屋)						978-4-88747-014-9	
参考書	『目で見る憲法 』初宿正典 他(有斐閣)						978-4-641-227354	
	『医療・福祉を学ぶための法学入門』久塚 純一 他(法律文化社)						978-4-589-03413-7	
教員からのメッセージ	毎回配布する講義プリントをノートの左ページに糊付けし、右側のページに講義を聞きながらノートを取り、自分のノートを作成し、毎回復習すること。							
教員との連絡方法	講義後、教室で個別の質問を受ける。							
実務経験のある教員	国家公務員として厚生省(現厚生労働省)を中心に中央省庁(首相官邸、外務省、環境省)において法律案の制定、予算の編成、行政計画の策定などの業務に携わってきた。また、外国勤務(在仏外交官)、地方勤務(広島市副市長)の行政経験もある。講義としては医療福祉関係の法制度、さらに法学(憲法・法律など)を得意領域とする。							

科目コード	R5008	授業科目名	教育概論					
履修区分	必修	開講期	1年	後期	授業回数	15回	単位数	1単位
担当者	森下 真実・林 俊雄・瀧口 美絵							
授業の概要	1. 教育にかかわる基礎的な知見についての理解を深めながら、教育のあり方について考える。 2. 国語教育の関わる基礎的な知見についての理解を深めながら、表現活動を通して国語教育を体感する。 3. 体育の授業を例にしながら、教授と学習の相関についての基礎理論を学び、教育のあり方について考える。							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける							◎
	②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける							△
	③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける							—
	④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける							△
	※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							
到達目標	1. 教育にかかわる基礎的な知見を理解し、自分にひきつけて教育的事柄について考えることができる。 2. 国語教育にかかわる基礎的な知見を理解し、表現活動を通して国語教育の重要性を体感する。 3. スポーツ素材の教材化の具体例をもとにしてその意味と方法について理解し、学びにおける個と集団の関係を考察する。							
履修上の注意事項	それぞれの講義において、「教育」について自分自身がどう考えているかに目を向けること。							
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修	
	第1回	学校における教科学習、とりわけ体育科の存在意義について(林)					これまで受けてきた体育の授業やスポーツ経験を思い出しながらまとめておく。(60分)	
	第2回	スポーツ素材を教材化するための理論と方法(1)(林)					教材化の二つの視点(方法的視点、内容的視点)についてふりかえりをしておく。(60分)	
	第3回	スポーツ素材を教材化するための理論と方法(2)(林)					スポーツ素材の特質を保ちながら学習者の主体性どのように整合性を保つのかについてふりかえりをしておく。(60分)	
	第4回	体育科の授業における教材・教師・子どもの三者の相関について(林)					具体的な体育の授業をイメージしながら授業成立の三要件についてふりかえりをしておく。(60分)	
	第5回	集団で学ぶことの意味と方法について(林)					体育科における集団学習の意義とその方法について自己の体験をもとにまとめておく(60分)	
	第6回	国語教育の学習領域―国語教育と国語科教育のちがいは―(瀧口)					ノートパソコンを毎時間使用するため、当日持参できるように用意し、C-ラーニングから資料を受け取ることをできるようにしておく(30分)	
	第7回	国語教育における「話すこと・聞くこと」の教育(瀧口)					前時の内容を踏まえ、資料を整理し、次回の講義資料を用意をする。(30分)	
	第8回	国語教育における「読むこと」の教育(瀧口)					前時の内容を踏まえ、資料を整理し、次回の講義資料を用意をする。(30分)	
	第9回	国語教育における「書くこと」の教育(瀧口)					読書感想文に書く本を決め、事前に読んでおく。(60分)	
	第10回	国語教育における「ことばの特徴や使い方」の教育(瀧口)					読書感想文を書き終え、整えておき、修正・提出の準備をしておく(60分)	
	第11回	「学び」と「教育」について(森下)					これまでの自分の「学び」、自分が受けてきた「教育」についてふりかえりをしておく。(60分)	
	第12回	なぜ教育は必要なのか(森下)					前時のふりかえりをしたうえで、教育の必要性についてイメージをしておく。(60分)	
	第13回	学校が持つ意味(1)(森下)					前時のふりかえりをしたうえで、自分にとって「学校」とはどのようなものであったか、ふりかえりをしておく。(60分)	
	第14回	学校が持つ意味(2)(森下)					前時のふりかえりをしたうえで、「学校」が持つ意味についてイメージをしておく。(60分)	
	第15回	生涯にわたる学習(森下)					前時のふりかえりをしたうえで、自分自身が生涯にわたって学習していくことについてイメージをしておく。(60分)	
成績評価方法	授業の提出物70% レポート30%							
	ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書	書名・著者(出版社)						ISBNコード	
	使用しない							
参考書								
教員からのメッセージ	使用テキストはありません。適宜資料を配付しますので、ファイリングし、予習・復習をしてください。							
教員との連絡方法	オリエンテーションの際にアナウンスします。							
実務経験のある教員	小学校教員として体育科の授業づくりや授業実践に携わった経験を基に、スポーツ素材を子どもの実態や発達に合わせて教材化するための視点を具体例を基に提供します。また、実際の体育授業例を基に授業成立の要件について考察できるようにしていきます。							

科目コード	R5009	授業科目名	比較文化論					
履修区分	選択	開講期	1年	前期	授業回数	15回	単位数	1単位
担当者	浮田 三郎							
授業の概要	近年、人、物、情報の交流が活発になり、民族・言語・文化的背景を異にする世界の人々がともに社会生活を営むようになった。このような時代にあって、世界の異なる文化的事情や背景について学び、相互交流や異文化交流のために必要な知識を学修する。また、文化の多様性や身体・病気・生死についての見方についての理解を深める。							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける							◎
	②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける							—
	③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける							○
	④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける							△
	※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							
到達目標	民族・言語・文化的背景を異にする世界の人々の社会生活を概観し、それらの異同を理解し、異文化間の相互交流や多文化共生のために必要な知識と能力を修得する。							
履修上の注意事項	必要な資料は配付します。授業中の私語は禁止。携帯電話の使用は禁止します。授業の内容を理解し、自分の意見も述べてみましょう。毎回出席を取ります。							
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修	
	第1回	ガイダンス、文化の多様性と多文化共生					世界の言語どのくらいあるでしょうか、また文化の多様性について考えてみてください。	
	第2回	世界の人々との交流					世界の人々とおつきあいをするためにはどんなことが必要でしょうか。(～p41)	
	第3回	世界の食事の味					世界の食事の味を(p42～63)どんなものが好きが考えてみましょう。	
	第4回	世界の食事の習慣、飲食の制限					世界の食事の習慣と飲食の制限についてどんなことが考えてみましょう。(p64～77)	
	第5回	世界の住まいとトイレ					世界には気候に合った住まいや民族の習慣に合ったトイレがあります。(p80～101)	
	第6回	服装が人を表す					みなさんの服装と世界の人々の服装を比べてみてください(p103～115)。	
	第7回	制限だらけの世界の結婚					世界の結婚の仕方、恋愛の仕方を考えてみましょう。(p118～138)	
	第8回	世界の結婚と家族					世界の家族のあり方、その制限などを考えてみましょう。(p138～161)	
	第9回	世界のカレンダー					宗教と暦、お祭りの関係も考えてみましょう。(p162～184)	
	第10回	世界の街の習慣、制限と罰金					街の生活習慣、そこに見らる制限と罰金について考えてみましょう。(p189～209)	
	第11回	世界のビジネスマンたち					世界の働き者はどの国でしょう。日本？考えてみましょう。(p219～225)	
	第12回	世界のスポーツと娯楽					世界のスポーツと娯楽にはどんなものがあるでしょうか。(p227～245)	
	第13回	各国の公共制度、平等と不平等					各国の公共制度、どこが平等、不平等でしょうか。(p149～265)	
	第14回	世界の教育事情					世界の教育事情、日本が一番大変でしょうか。(p267～287)	
	第15回	世界の病気観と生死観					世界の病気と生死に関する諺などから見る考え方などを考えてみましょう。(プリント資料)	
成績評価方法	期末試験(テキスト持ち込み可)と小レポートの結果、教室での質疑応答も考慮します。 ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書	書名・著者(出版社)					ISBNコード		
	対訳 英語で比べる「世界の常識」 足立 恵子(講談社BB)					9784770023469		
参考書	対訳 誤解される日本 賀川 洋(PHP新書)					9784569773025		
教員からのメッセージ	テキストの日本語の方を利用します。予習として、テキストに目を通しておいてください。 日常の世界のニュースや映画などを見る時に、異文化理解という観点からも考えてみるようにします。							
教員との連絡方法	Mail : ukida@hiroshima-u.ac.jp							
実務経験のある教員								

科目コード	R5010	授業科目名	社会と平和					
履修区分	選択	開講期	1年	前期	授業回数	15回	単位数	1単位
担当者	丸岡 清枝							
授業の概要	焦土と化した広島への復興期を振り返り、ヒロシマの人々が平和を構築してきた過程を知ingことを目的としています。復興期の象徴的なトピックを中心に、どのようにしてヒロシマから「平和」を伝えてきたか、また次世代へ伝えようとしているかを解説していきます。今までの学校教育で「平和教育」を受けてきたという学生たちにも、復興期のトピックごとに見ていくことによって、今までの知識にプラスして深めてほしいと思っています。							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける						◎	
	②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける						△	
	③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける						○	
	④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける						○	
	※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)＝卒業までに身に付けるべき資質・能力							
到達目標	医療人として将来接するであろう様々な価値観や文化的背景を持つ方々と「平和」に対する共通意識を持ち、コミュニケーションツールとしての知識の習得をする。 また、広島への復興の歴史を知ることにより、被爆体験の継承など次世代へ「平和」をつなげる行動をとるきっかけとする。							
履修上の注意事項	下記の成績の評価方法にも詳しく書いていますが、出席するだけでは「出席」にしません。出席をして各回の課題を提出することによって「出席」となりません。授業に出たから試験の受験資格を満たしたと思わないようにしてください。期末試験は予定していません。そのかわり各回の課題内容で評価をしますので真剣に取り組んでくださいまた、課題はていねいに書くことを心がけ、誤字・脱字等がないか内容を確認し、提出してください。							
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修	
	第1回	オリエンテーション					オリエンテーションを聞いて授業の進め方を理解する。 また原爆被害について復習しておく(60分)	
	第2回	広島への復興について①(広島平和記念都市建設法)					紹介した法律の条文を読んで、その内容が広島への復興にどのように関係しているか考える(60分)	
	第3回	広島への復興について②(平和記念公園)					平和記念公園やその周辺を歩き、この空間ができた意義を感じる(60分)	
	第4回	広島への復興について③(原爆ドーム)					原爆ドーム周辺を歩き、このドームが残ったことの意義を自分なりに考察する(60分)	
	第5回	広島への復興について④(市民生活―江波だんごって知っとる?)					事前に曾祖父・祖母や父母に「江波だんご」を知っているか、戦後すぐの食糧難を体験しているかどうか聞いておく(60分)	
	第6回	広島への復興について⑤(市民生活―供木運動)					事前に平和大通りを歩いて、植樹されている樹木の形や種類などを見ておく(60分)	
	第7回	「ヒロシマ」を伝える―「原爆体験記」					講義内で紹介した「被爆体験記」を読んでみる(60分)	
	第8回	「ヒロシマ」を伝える―「被爆体験証言」					平和記念資料館ホームページにアップされている「被爆体験証言」を視聴してみる(60分)	
	第9回	「ヒロシマ」を伝える―「被爆建物」					講義内で紹介されている「被爆建物」を探してみたり、実際に訪ねてみる(60分)	
	第10回	「ヒロシマ」を伝える―「マンガ・アニメーション」					授業内で紹介されたマンガを読んでみる(60分)	
	第11回	「ヒロシマ」を伝える―「アニメーション」(原爆をテーマとしたアニメーション等を視聴予定)					授業内で視聴したアニメーションだけでなく、原爆や平和をテーマとしたアニメーションを視聴する(60分)	
	第12回	原爆乙女①総論					被爆者たちを取り巻く困難について考え、今までの学習の復習をしておく(60分)	
	第13回	原爆乙女②各論					各論で配付した資料をもう一度読み、各論を受ける準備をする(60分)	
	第14回	「ヒロシマ」を継承する施設―広島平和記念資料館・国立広島原爆死没者追悼平和祈念館					紹介した施設を実際に訪れて、ヒロシマを伝える基礎を復習しておく(60分)	
第15回	まとめ					様々な意見を聞いて、自分どのように「平和」を希求するかを考えをまとめる(60分)		
成績評価方法	「出席30% 各回の課題70%」とします。各回最後に課題を課します。その課題を授業時間内に提出することによって、1コマ分の出席完了とします(出席+課題提出=30%)。課題の内容に沿った内容を記入しているかどうかで課題の評価をします(各回の課題70%)。よって「出席のみで課題を提出しない」場合出席と見なしません。また「授業を欠席しているのに課題を提出」も出席と見なしません。きちんと授業に出て課題を提出することによって課題の内容評価につながり、成績評価となります。 ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書	書名・著者(出版社)					ISBNコード		
	使用しない							
参考書								
教員からのメッセージ	成績の評価方法で書いてあるとおり、出席して課題を提出することで、出席と見なします。 前提として講義を聞いて自分なりにヒロシマの歩みを感じ取ってほしい。しっかり講義を聞いて、限られた時間の中で自分の意見をきちんとまとめる訓練と思って課題に取り組んでください。							
教員との連絡方法	講義前後に教室か講義室にて直接質問をしてください。 講義時間以外は基本的に在学していないので、上記の方法で隙を見て気軽に話しかけてください。							
実務経験のある教員	広島市の被爆50年史の編集作業に従事。広島平和記念資料館情報資料室でレファレンス業務等を行いました。また被爆者の方々の被爆体験を書籍化する活動をしています。							

科目コード	R5011	授業科目名	医療経済政策論					
履修区分	選択	開講期	1年	後期	授業回数	15回	単位数	1単位
担当者	鈴木 誠志							
授業の概要	日本の医療制度は高齢社会を迎えて、大きな転換期にある。「いつでも、どこでも、誰でもが安心して医療をうけられる」という目標の実現が、高齢化と低成長経済の下で困難となっているからである。医療サービス自体も公平と効率の観点から医療制度に関わる「人」「物」「金」のすべてにおいて、その改革が迫られている。本講義では、日本の医療制度について、経済学的な視点から概観する。医療サービスの特性を踏まえ、どのような規制や制度が必要とされており、なぜ各国において医療制度に違いがあるか等の問題について経済学の視点から学ぶ。							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける							—
	②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける							△
	③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける							◎
	④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける							○
	※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							
到達目標	医療に関する問題を経済学的な視点で捉え、考えることができる。							
履修上の注意事項	授業期間中に4回程度、小テストやレポート提出があります。また、学期末に期末試験を実施します。成績評価は、これらを総合して行いますので、毎回の授業への出席はもちろんですが、授業後の自宅での復習を習慣づけてください。							
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修	
	第1回	授業の紹介						
	第2回	経済学的な考え方について(1)					ノートの整理、授業内容の復習(120分)	
	第3回	経済学的な考え方について(2)					ノートの整理、授業内容の復習(120分)	
	第4回	需要曲線と供給曲線					小テストの準備(120分)	
	第5回	市場と市場の分類、小テスト①					ノートの整理、授業内容の復習(120分)	
	第6回	市場の価格調整メカニズムについて					ノートの整理、授業内容の復習(120分)	
	第7回	経済実験―市場取引について―					ノートの整理、授業内容の復習(120分)	
	第8回	需要・供給分析 レポート課題					レポート作成(120分)	
	第9回	消費者余剰と生産者余剰					小テストの準備(120分)	
	第10回	不完全競争市場、小テスト②					ノートの整理、授業内容の復習(120分)	
	第11回	情報の非対称性					ノートの整理、授業内容の復習(120分)	
	第12回	医療サービスの需要					ノートの整理、授業内容の復習(120分)	
	第13回	医療サービスの供給					小テストの準備(120分)	
	第14回	医療サービス市場、小テスト③					ノートの整理、授業内容の復習(120分)	
	第15回	まとめ					単位習得試験の準備(120分)	
成績評価方法	授業期間中に実施する小テスト及びレポート(計4回程度):40% 期 末 試 験 :60% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書	書名・著者(出版社)						ISBNコード	
	使用しない							
参考書	講義の中で適宜紹介します							
教員からのメッセージ	講義では、丁寧な解説を心がけています。板書することが多いですので、板書したことをしっかりとノートにとり、復習をすることで学んだ知識を理解するだけでなく、身につけることが大切です。							
教員との連絡方法	E-mail アドレス:jimu2@hcu.ac.jp							
実務経験のある教員								

科目コード	R5012	授業科目名	ボランティア論					
履修区分	選択	開講期	1年	後期	授業回数	15回	単位数	1単位
担当者	吉清 有三・上田 英司							
授業の概要	[古澤]ボランティアは自己満足のためではなく、慈愛の精神からくる自己の犠牲によって生まれるとも言える。こうしたボランティアとはなにか、自分は何ができるか、何のためにするのかを学修する。また、職業を通じてのボランティア、自己の能力、『知・技・体』に応じたボランティアなどの大切さを学ぶ。 [吉清]社会が必要としているボランティアを知り、専門職のスキルを身につけ地域貢献する知識を学ぶ。							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける							
	②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける							
	③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける							
	④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける							
	※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							
到達目標	[吉清]ボランティア論を学ぶことで、問題解決能力を高め、積極性を身につける。							
履修上の注意事項	[吉清]学生としての一般的マナー 授業の終了10分前にテーマ指定のレポートの提出(出席を兼ねる)があります。							
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修	
	第1回	ボランティアを行う上で必要な社会情勢についての理解						
	第2回	自助・共助・償助・公助について						
	第3回	ボランティアの種類について						
	第4回	ボランティアコーディネーターについて						
	第5回	ボランティアを行うときに起こりやすい問題に対する状況						
	第6回	ボランティアの8つの原則について						
	第7回	NPO法人についてと、ボランティアの事例について						
	第8回	プロボノ(Pro Bono)						
	第9回	問題解決能力とボランティア						
	第10回	平和学習とボランティア						
	第11回	災害とボランティア						
	第12回	江戸文化から学ぶボランティア						
	第13回	障害者支援とボランティア						
	第14回	フェア・トレード						
	第15回	地域とボランティア						
成績評価方法	各授業中でおこなう小記述レポートの内容50%と、期末の課題(レポート)50%で評価します。 (具体的な評価方法は授業開始時に説明) ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書	書名・著者(出版社)						ISBNコード	
参考書	恋するようにボランティアを 大熊 由紀子(ぶどう社)						978-4892401947	
教員からのメッセージ								
教員との連絡方法	日々の生活の中でボランティア的行動を実行してみる。 積極的に、ボランティア活動に参加して、友人と体験を共有し、地域社会の問題点を考えてみる。 短時間で問題を解決する手段を経験する。							
実務経験のある教員								

科目コード	R5013	授業科目名	物理学					
履修区分	必修	開講期	1年	前期	授業回数	15回	単位数	1単位
担当者	未定							
授業の概要	自然科学は日常的な現象を体系的に整理し、一定の法則を見出そうとする学問であり、物理学は、このような自然科学の一分野にある。本講義では、物理学の重要な法則と概念を典型的な物理現象の例を通じて具体的に理解し、いろいろな法則や概念を諸法則の相互関連を認識しつつ系統的に把握できるよう学修する。具体的には、自然現象を定量的に理解するために必要な数学的事項、物体の運動を理解する力学、波の性質、熱力学とエントロピー、電場、電量と磁界、電磁誘導と電磁波、相対性理論などについての基本的知識を学修する。これらの学修を通し、身体ならびに物体への物理的関わりを物理学の観点から考えられるよう視点を広げる。							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける							
	②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける							
	③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける							
	④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける							
	※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							
到達目標								
履修上の注意事項								
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修	
	第1回							
	第2回							
	第3回							
	第4回							
	第5回							
	第6回							
	第7回							
	第8回							
	第9回							
	第10回							
	第11回							
	第12回							
	第13回							
	第14回							
	第15回							
成績評価方法	ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書	書名・著者(出版社)						ISBNコード	
参考書								
教員からのメッセージ								
教員との連絡方法								
実務経験のある教員								

科目コード	R5014	授業科目名	生物学					
履修区分	必修	開講期	1年	前期	授業回数	15回	単位数	1単位
担当者	松尾 茂							
授業の概要	医療・保健に従事するものにとって、生命について学ぶのは必須である。生命とは何かを追求する学問である生物学では、生命の起源と進化、細胞・組織・器官の理解から始まり、生体のエネルギー、遺伝情報の伝達など生物学の基礎と人体のかかわりを学修する。また、近年では、様々なバイオテクノロジーの開発により、再生医療などの言葉で象徴されるように生物学は社会と極めて密接に関わりあうようになってきている。環境問題、食の安全、医療などの身近なトピックスを通して現代の生物学の理解と認識を深める。							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける ②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける ③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける ④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける ※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							○ ◎ △ ○
到達目標	ヒトを含む生命現象について、基礎的内容を理解するとともに簡潔に説明することができる。 ・細胞の構造と機能について説明することができる ・細胞分裂、発生、遺伝のしくみについて説明することができる ・刺激の受容と行動について説明することができる ・代謝のしくみについて説明することができる ・恒常性のしくみについて説明することができる							
履修上の注意事項	毎回、ワークシートを整理してポイントをまとめておくこと。授業中は講義に集中すること。 携帯電話など授業に必要なものはカバンに納めておくこと。							
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修	
	第1回	生物学を学ぶにあたって ・生物学を学ぶ意義など					ワークシートを整理し、講義のポイントを簡潔に説明できるようにまとめる。(50分)	
	第2回	細胞の構造と働き ・細胞の基本構造、細胞の化学成分など					ワークシートを整理し、講義のポイントを簡潔に説明できるようにまとめる。(50分)	
	第3回	細胞膜の働き ・細胞と浸透、細胞膜の構造、物質の輸送など					ワークシートを整理し、講義のポイントを簡潔に説明できるようにまとめる。(50分)	
	第4回	生体内の化学反応 ・ATPの働き、酵素の特性と働きなど					ワークシートを整理し、講義のポイントを簡潔に説明できるようにまとめる。(50分)	
	第5回	同化作用 ・炭酸同化、窒素同化など					第1回～第5回講義のまとめを参考にしながらレポート作成を行う。(100分)	
	第6回	異化作用1 ・好気呼吸など					ワークシートを整理し、講義のポイントを簡潔に説明できるようにまとめる。(50分)	
	第7回	異化作用2 ・嫌気呼吸(発酵、腐敗)など					ワークシートを整理し、講義のポイントを簡潔に説明できるようにまとめる。(50分)	
	第8回	生殖と発生1 ・細胞分裂、受精、発生など					ワークシートを整理し、講義のポイントを簡潔に説明できるようにまとめる。(50分)	
	第9回	生殖と発生2 ・分化のしくみなど					ワークシートを整理し、講義のポイントを簡潔に説明できるようにまとめる。(50分)	
	第10回	遺伝情報の伝達と発現のしくみ1 遺伝のしくみ、変異など					第6回～第10回講義のまとめを参考にしながらレポート作成を行う。(100分)	
	第11回	遺伝情報の伝達と発現のしくみ2 ・DNAの働き、タンパク質合成、遺伝子組み換えなど					ワークシートを整理し、講義のポイントを簡潔に説明できるようにまとめる。(50分)	
	第12回	個体の調節1 ・自律神経、ホルモンなど					ワークシートを整理し、講義のポイントを簡潔に説明できるようにまとめる。(50分)	
	第13回	個体の調節2 血液のはたらき、免疫のしくみなど					ワークシートを整理し、講義のポイントを簡潔に説明できるようにまとめる。(50分)	
	第14回	刺激の受容と行動1 ・刺激の受容から反応までのしくみ、反射など					ワークシートを整理し、講義のポイントを簡潔に説明できるようにまとめる。(50分)	
	第15回	刺激の受容と行動2 ・身近な動物のさまざまな行動など					第11回～第15回講義のまとめを参考にしながらレポート作成を行う。(100分)	
成績評価方法	期末試験 60％ レポート・小テスト 20％ 授業内ワークシート 20％ ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書	書名・著者(出版社) 生物学 系統看護学講座基礎第10版 桑澤清明(医学書院)						ISBNコード 978-4260031899	
参考書	高校で学習した参考書や問題集、図表など。また、教科書巻末にも参考文献がある。							
教員からのメッセージ	次回の授業範囲を予習すること。配布資料をよく読むこと。授業ごとに学習した事項を簡潔にまとめておくこと。							
教員との連絡方法	講義時間以外は基本的に在学していないので、次の方法で気軽に話しかけてください。 ①講義前後に講義室にて直接質問 ②メール							
実務経験のある教員	高等学校で理科(生物)を教えた教員が担当します。高校生物の基礎的内容をより深く確かなものにして大学の専門領域の学修に繋げていきます。また、環境問題、食の安全、医療などの身近なトピックスを通して現代の生物学の理解と認識を深めていきます。							

科目コード	R5015	授業科目名	情報処理学理論					
履修区分	必修	開講期	1年	前期	授業回数	15回	単位数	1単位
担当者	西宮 大典・馬屋原 康高・未定・岩本 優士・中川 敬汰・田邊 淳平							
授業の概要	道具としてコンピュータを使いこなすために必要なコンピュータの構成・情報モラルや情報セキュリティなど、基本的な理論を学習する。またMicrosoft Officeを使った情報リテラシー、文書作成・表計算の基礎的なテクニックを習得する。							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける						—	
	②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける						◎	
	③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける						—	
	④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける						△	
	※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							
到達目標	データと情報、コンピュータの構造と基本的機能、情報モラルや情報セキュリティについて理解し、おおむね説明できるようになること。またMicrosoft Officeの基本的スキルを身に着け、Wordを使った基本的な文書作成・Excelを利用した表作成および集計やグラフ作成等ができるようになること。							
履修上の注意事項	教科書は情報モラル&情報リテラシーの内容を重視しoffice2021対応を使用します。最初の授業までに各自のパソコンにoffice(Word・Excel)をインストールしておくこと。							
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修	
	第1回	ガイダンス:C-learning、Web掲示板、Officeの使用方法について(馬屋原)					事後学修:Web掲示板の確認、C-learningの使用(60分)	
	第2回	情報リテラシー(江越)					事後学修:講義内容の復習(60分)	
	第3回	大学生のWord入門:レポート作成の基礎(岩本)					事前学修:Wordが立ち上がる状態を確認しておく(60分)	
	第4回	大学生のExcel入門:研究データの処理体験(中川)					事前学修:Excelが立ち上がる状態を確認しておく(60分)	
	第5回	大学生のPowerpoint、E-mail入門:基本的な使用方法とメールマナー(田邊)					事前学修:Powerpoint、Outlookが立ち上がる状態を確認しておく(60分)	
	第6回	Word:文書作成ソフトの基礎知識等(西宮)					事後学修:講義内で指示する(60分)	
	第7回	Word:表の挿入(西宮)					事後学修:講義内で指示する(60分)	
	第8回	Word:短文レポートの構成(1)(西宮)					事後学修:講義内で指示する(60分)	
	第9回	Word:短文レポートの構成(2)(西宮)					事後学修:講義内で指示する(60分)	
	第10回	Word:まとめ(西宮)					事後学修:講義内で指示する(60分)	
	第11回	Excel:表計算ソフトの基礎知識(西宮)					事後学修:講義内で指示する(60分)	
	第12回	Excel:表の作成(西宮)					事後学修:講義内で指示する(60分)	
	第13回	Excel:表の編集(西宮)					事後学修:講義内で指示する(60分)	
	第14回	Excel:表の印刷とグラフ作成(西宮)					事後学修:講義内で指示する(60分)	
	第15回	Excel:まとめ(西宮)					事後学修:講義内で指示する(60分)	
成績評価方法	期末試験 40% 課題提出 60%(実技ミニテスト含む)							
	ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書	書名・著者(出版社)					ISBNコード		
	情報リテラシー(Windows11 Office2021対応)(FOM出版)					978-4-938927-53-0		
参考書								
教員からのメッセージ								
教員との連絡方法								
実務経験のある教員								

科目コード	R5016	授業科目名	情報処理演習					
履修区分	必修	開講期	1年	後期	授業回数	15回	単位数	1単位
担当者	西宮 大典							
授業の概要	保健・医療分野ではIT化がすすみ、World、Excel、Power Pointの基本操作を習得は必須である。配線の方法、設置の方法、メンテナンスの方法という基本操作の習得から始め、実際に文書作成や表計算、グループでのプレゼンテーションを行うことによって技術を習得する。また、ネットワークの検索、ホームページ作成、電子メールの送受信など演習を通し、学修する。							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける							
	②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける							
	③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける							
	④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける							
	※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							
到達目標								
履修上の注意事項								
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修	
	第1回	マルチメディアとは						
	第2回	Power Point とプレゼンテーション						
	第3回	ポスター作成とスライド作成						
	第4回	文字修飾ワードアートとクリップアート						
	第5回	スライドにおけるアニメーション効果						
	第6回	自己紹介のスライド作成						
	第7回	配布資料の作成						
	第8回	画像編集、フォトタッチ機能						
	第9回	ホームページとHTMLファイルの基本						
	第10回	HTMLタグとエディタ						
	第11回	WWW画面の設計とHTML						
	第12回	ホームページの作成						
	第13回	偏差値の計算						
	第14回	スマートフォン・ICタグなど最近の話題						
	第15回	情報処理演習のまとめ						
成績評価方法	ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書	書名・著者(出版社)						ISBNコード	
参考書								
教員からのメッセージ								
教員との連絡方法								
実務経験のある教員								

科目コード	R5017	授業科目名	統計学					
履修区分	必修	開講期	3年	前期	授業回数	15回	単位数	1単位
担当者	中尾 走							
授業の概要	保健学分野における科学的実践活動及び研究で使用される主要な統計学的手法と解析法を取り上げ、目的に応じたデータ解析を実践するための知識と方法を習得する。							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける							△
	②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける							○
	③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける							◎
	④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける							◎
	※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							
到達目標	①保健学分野の調査研究や実践で活用できるよう、統計学の基礎知識を学ぶ。 ②実際に統計解析ソフトを用いてデータ分析を演習し、定量分析のスキルを習得していく。							
履修上の注意事項	わからない統計解析用語があれば、その度、下記(参考書)の事典等で調べ理解しておくこと。							
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修	
	第1回	統計学の基礎					高校時代に習った統計学に関する知識を復習しておく。(60分)	
	第2回	統計学の基礎②					前回の講義の復習と配布資料に沿った予習をする。身近な統計学が使われているものを探しておく。(60分)	
	第3回	1変量統計					平均値以外の代表値について復習をする。(60分)	
	第4回	2変量統計					分散と標準偏差の考え方, 計算方法を復習する。(60分)	
	第5回	相関と回帰					身近な相関関係のあるものを探しておく。(60分)	
	第6回	相関と因果					相関関係と因果関係の違いを復習する(60分)。	
	第7回	尺度と推測統計					身近で推測統計が用いられているものを探しておく。(60分)	
	第8回	確率					確率的な思考によって、より望ましい意思決定になるものを身近なもので探しておく。(60分)	
	第9回	確率分布					講義で学んだ確率分布以外の確率分布について調べてまとめる。(60分)	
	第10回	確率分布②					確率分布を使った統計学的な推測の仕方を復習しておく。(60分)	
	第11回	母平均の推定					講義で学んだ母平均の推定が身近なもので応用できそうなものを探す。(60分)	
	第12回	母平均の推定(t分布)					t分布について講義資料と参考図書を用いて、予習・復習しておく。(60分)	
	第13回	仮説検定・t検定					効果のある／ないを考えるための仮説検定の考え方を配布資料に沿って、予習・復習しておく。	
	第14回	クロス表の検定					クロス表の検定の考え方をを用いて、効果(関連)のある／ないを身近な事例で考えてみる。(60分)	
	第15回	最終試験または最終レポート						
成績評価方法	授業内課題40％ 最終試験または最終レポート60％ (正確な比率は初回の授業で決めます) ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書	書名・著者(出版社)						ISBNコード	
	保健統計・疫学 改訂6版 福澤和夫・橋本修二(南山堂)						9784525053369	
参考書	統計学 田中勝人(新世社)						4-915787-91-5	
教員からのメッセージ	積極的に質疑応答をしてください。							
教員との連絡方法	分からないことや、不明な点、または急な連絡が必要な方は以下までご連絡ください。 e-mail:ran_nk@hiroshima-cu.ac.jp							
実務経験のある教員								

科目コード	R5018a	授業科目名	英語ⅠA(読解中心)					
履修区分	必修	開講期	1年	前期	授業回数	15回	単位数	1単位
担当者	相原 健人							
授業の概要	読解、文法演習、語句テスト、リスニングテストを通して、英語を読み取る力、聞き取る力を高めるとともにリハビリテーションの現場で使われる専門用語や表現等を身に付ける							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける ②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける ③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける ④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける ※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							— — — △
到達目標	・医療現場で使われる専門用語等の習得 ・専門分野の文献を理解するための読解基礎力を養うこと							
履修上の注意事項	・「難しい」、「分からない」と言って、英語から逃げないこと！ ・和訳や答えを写すだけの消極的な学習を行わないこと！！ ・積極的に課題に取り組み、新しい文法、構文、フレーズなどをどんどん吸収していくこと！！							
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修	
	第1回	ガイダンス /It中心の構文①(C=『コンパクト英語構文』)					プリントを用い授業内容の概略を捕らえて授業に臨む(30分) 授業後、音読等の反復練習により、知識の定着を図る(30分)	
	第2回	U1 Sports and injuries(H=『Human Biology』)/It中心の構文②(C)					プリントを用い授業内容の概略を捕らえて授業に臨む(30分) 授業後、音読等の反復練習により、知識の定着を図る(30分)	
	第3回	U2 Blood circulation(H)/不定詞を含む構文①(C)					プリントを用い授業内容の概略を捕らえて授業に臨む(30分) 授業後、音読等の反復練習により、知識の定着を図る(30分)	
	第4回	U3 Muscles and movement(H)/不定詞を含む構文②(C)					プリントを用い授業内容の概略を捕らえて授業に臨む(30分) 授業後、音読等の反復練習により、知識の定着を図る(30分)	
	第5回	U4 Genetically modified food(H)/不定詞を含む構文③(C)					プリントを用い授業内容の概略を捕らえて授業に臨む(30分) 授業後、音読等の反復練習により、知識の定着を図る(30分)	
	第6回	U5 The brain: language and sleep(H)/不定詞を含む構文④(C)					プリントを用い授業内容の概略を捕らえて授業に臨む(30分) 授業後、音読等の反復練習により、知識の定着を図る(30分)	
	第7回	U6 Animals and humans(H)/分詞を含む構文①(C)					プリントを用い授業内容の概略を捕らえて授業に臨む(30分) 授業後、音読等の反復練習により、知識の定着を図る(30分)	
	第8回	U7 Agriculture and human health(H)/分詞を含む構文②(C)					プリントを用い授業内容の概略を捕らえて授業に臨む(30分) 授業後、音読等の反復練習により、知識の定着を図る(30分)	
	第9回	U8 Health and fitness(H)/分詞を含む構文③(C)					プリントを用い授業内容の概略を捕らえて授業に臨む(30分) 授業後、音読等の反復練習により、知識の定着を図る(30分)	
	第10回	U9 Food and nutrition(H)/動名詞を含む構文①(C)					プリントを用い授業内容の概略を捕らえて授業に臨む(30分) 授業後、音読等の反復練習により、知識の定着を図る(30分)	
	第11回	U10 Drugs and human body(H)/動名詞を含む構文②(C)					プリントを用い授業内容の概略を捕らえて授業に臨む(30分) 授業後、音読等の反復練習により、知識の定着を図る(30分)	
	第12回	U11 Human immunity(H)/関係詞を含む構文①(C)					プリントを用い授業内容の概略を捕らえて授業に臨む(30分) 授業後、音読等の反復練習により、知識の定着を図る(30分)	
	第13回	U12 Humans and their environment(H)/関係詞を含む構文②(C)					プリントを用い授業内容の概略を捕らえて授業に臨む(30分) 授業後、音読等の反復練習により、知識の定着を図る(30分)	
	第14回	U13 Food issues and human health(H)/否定構文①(C)					プリントを用い授業内容の概略を捕らえて授業に臨む(30分) 授業後、音読等の反復練習により、知識の定着を図る(30分)	
	第15回	U14 Genetics(H)/否定構文②(C)					プリントを用い授業内容の概略を捕らえて授業に臨む(30分) 授業後、音読等の反復練習により、知識の定着を図る(30分)	
成績評価方法	期末試験 80% 小テスト・授業内ワークシート・学習ノート等 20% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書	書名・著者(出版社)						ISBNコード	
	Human Biology 笹島 茂 他(三修社)						978-4-384-33460-9	
	コンパクト英語構文 南出康世(監修)(数研出版)						978-4-410-11333-8	
参考書								
教員からのメッセージ	新しいフレーズを1つ覚えるごとに、英語のスキルは向上し、君たちの可能性もどんどん広がっていきます。英語をあまり難しく考えないで、知らない表現を1つでも多く身につけることを目標にして、日々の学習に取り組みましょう。							
教員との連絡方法	週1回(金曜日)、午前中の出講となりますので、授業の前後の時間に講師控室まで訪ねてきてください。							
実務経験のある教員								

科目コード	R5018b	授業科目名	英語 I A(読解中心)					
履修区分	必修	開講期	1年	前期	授業回数	15回	単位数	1単位
担当者	柳原 里枝子							
授業の概要	心身の健康に関するトピックを通して、英語の語彙力を養い、英文の内容理解度の向上を図ります。リーディングを中心とした活動を通して、基礎的な英文法の学び直しを図ります。また、発音練習や音読練習を通して英語習得に対する自信を身につけ、コミュニケーションとして積極的に英語を使用しようとする態度を育成します。							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける							○
	②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける							—
	③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける							○
	④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける							◎
	※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							
到達目標	1. 食物や健康に関する英単語を習得すること。 2. 対話文を読んで必要な情報を読み取ることができる。 3. 英文で書かれたパラグラフを読んで内容を理解できる。							
履修上の注意事項	ペアワークやグループワークに積極的に参加してください。 課題の提出期限を守るようお願いします。 辞書を使用して予習をしておくことが望ましい。							
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修	
	第1回	授業概要					英語で自己紹介文が書けるようにしておく。(60分)	
	第2回	Fuel Your Body and Mind ① (Vocabulary & Dialog)					対話文の内容について意味を確認する。(60分)	
	第3回	Fuel Your Body and Mind ② (Reading Activity)					英文の内容について理解する。(60分)	
	第4回	What Helps Keep a Doctor Away? ① (Vocabulary & Dialog)					対話文の内容について意味を確認する。(60分)	
	第5回	What Helps Keep a Doctor Away? ② (Reading Activity)					英文の内容について理解する。(60分)	
	第6回	Laughing Will Save You from Going Crazy ① (Vocabulary & Dialog)					対話文の内容について意味を確認する。(60分)	
	第7回	Laughing Will Save You from Going Crazy ② (Reading Activity)					英文の内容について理解する。(60分)	
	第8回	Reading Test					英語を読めるように練習しておく。(60分)	
	第9回	The French Paradox ① (Vocabulary & Dialog)					対話文の内容について意味を確認する。(60分)	
	第10回	The French Paradox ② (Reading Activity)					英文の内容について理解する。(60分)	
	第11回	Americans' Interest in Sushi ① (Vocabulary & Dialog)					対話文の内容について意味を確認する。(60分)	
	第12回	Americans' Interest in Sushi ② (Reading Activity)					英文の内容について理解する。(60分)	
	第13回	Don't Stay Away from Natto ① (Vocabulary & Dialog)					対話文の内容について意味を確認する。(60分)	
	第14回	Don't Stay Away from Natto ② (Reading Activity)					英文の内容について理解する。(60分)	
	第15回	学習のまとめ					これまでの学習を振り返って、復習しておく。(60分)	
成績評価方法	①Reeading & Listening Comprehension 20% ②Active Class Participation 20% ③Reading Test 10% ④期末試験 50% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書	書名・著者(出版社)					ISBNコード		
	Better Health for Every Day Toshiaki Nishimura 他(金星堂)					978-4-7647-3983-3		
参考書								
教員からのメッセージ	語彙の意味を辞書で調べるなど、予習をしておいてください。							
教員との連絡方法	最初の授業でお知らせします。							
実務経験のある教員	中学校・高等学校・大学での外国語(英語)指導の経験を有する。							

科目コード	R5018c	授業科目名	英語ⅠA(読解中心)					
履修区分	必修	開講期	1年	前期	授業回数	15回	単位数	1単位
担当者	相原 健人							
授業の概要	読解、文法演習、語句テストリスニング練習を通して、英語を読み取る力、聞き取る力を高めるとともにリハビリテーションの現場で使われる専門用語や表現等を身に付ける							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける							—
	②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける							—
	③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける							—
	④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける							△
	※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							
到達目標	・医療現場で使われる専門用語等の習得 ・基本的な英文を理解するための読解力を身につけること							
履修上の注意事項	・「難しい」、「分からない」と言って、英語から逃げないこと！ ・和訳や答えを写すだけの消極的な学習を行わないこと！！ ・積極的に課題に取り組み、新しい文法、構文、フレーズなどをどんどん吸収していくこと！！！！							
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修	
	第1回	ガイダンス					プリントを用い授業内容の概略を捕らえて授業に臨む(30分) 授業後、音読等の反復練習により、知識の定着を図る(30分)	
	第2回	U1 What’s Worries Barbara？					プリントを用い授業内容の概略を捕らえて授業に臨む(30分) 授業後、音読等の反復練習により、知識の定着を図る(30分)	
	第3回	U2 That’s Mama’s Hair！					プリントを用い授業内容の概略を捕らえて授業に臨む(30分) 授業後、音読等の反復練習により、知識の定着を図る(30分)	
	第4回	U3 Mesntrual Problems					プリントを用い授業内容の概略を捕らえて授業に臨む(30分) 授業後、音読等の反復練習により、知識の定着を図る(30分)	
	第5回	U4 Right or Left？					プリントを用い授業内容の概略を捕らえて授業に臨む(30分) 授業後、音読等の反復練習により、知識の定着を図る(30分)	
	第6回	U5 How to Give First Aid					プリントを用い授業内容の概略を捕らえて授業に臨む(30分) 授業後、音読等の反復練習により、知識の定着を図る(30分)	
	第7回	U6 Make a Restroom More Accesible to LGBT People					プリントを用い授業内容の概略を捕らえて授業に臨む(30分) 授業後、音読等の反復練習により、知識の定着を図る(30分)	
	第8回	U7 Are You Being Abused？					プリントを用い授業内容の概略を捕らえて授業に臨む(30分) 授業後、音読等の反復練習により、知識の定着を図る(30分)	
	第9回	U8 Giving Blood					プリントを用い授業内容の概略を捕らえて授業に臨む(30分) 授業後、音読等の反復練習により、知識の定着を図る(30分)	
	第10回	U9 Living a Healthy Life					プリントを用い授業内容の概略を捕らえて授業に臨む(30分) 授業後、音読等の反復練習により、知識の定着を図る(30分)	
	第11回	U10 Is the Treatment Different or Not？					プリントを用い授業内容の概略を捕らえて授業に臨む(30分) 授業後、音読等の反復練習により、知識の定着を図る(30分)	
	第12回	U11 Is Hepatitis B Curable？					プリントを用い授業内容の概略を捕らえて授業に臨む(30分) 授業後、音読等の反復練習により、知識の定着を図る(30分)	
	第13回	U12 Do you want to be skinny？					プリントを用い授業内容の概略を捕らえて授業に臨む(30分) 授業後、音読等の反復練習により、知識の定着を図る(30分)	
	第14回	U13 You Need a Breast Self－Examination					プリントを用い授業内容の概略を捕らえて授業に臨む(30分) 授業後、音読等の反復練習により、知識の定着を図る(30分)	
	第15回	U14 Foreign Nurses Struggle for the Japanese Language					プリントを用い授業内容の概略を捕らえて授業に臨む(30分) 授業後、音読等の反復練習により、知識の定着を図る(30分)	
成績評価方法	期末試験 80％ 小テスト・授業内ワークシート・学習ノート等 20％							
	ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書	書名・著者(出版社)						ISBNコード	
	医療と看護の総合英語 Take Care! 笹島茂／山崎朝子(三修社)						978-4-384-33469-2	
参考書								
教員からのメッセージ	新しいフレーズを1つ覚えるごとに、英語のスキルは向上し、君たちの可能性もどんどん広がっていきます。英語をあまり難しく考えないで、知らない表現を1つでも多く身につけることを目標にして、日々の学習に取り組みましょう。							
教員との連絡方法	週1回(金曜日)、午前中の出講となりますので、授業の前後の時間に講師控室まで訪ねてきてください。							
実務経験のある教員								

科目コード	R5019a	授業科目名	英語ⅠB(表現中心)					
履修区分	必修	開講期	1年	後期	授業回数	15回	単位数	1単位
担当者	相原 健人							
授業の概要	読解、文法演習、語句テスト、リスニングテストを通して、英語を読み取る力、聴き取る力を高める また、読み取る力、聴き取る力に加え、自分の考えを英語で伝える、コミュニケーション能力の習得も目指す							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける						—	
	②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける						—	
	③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける						—	
	④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける						△	
	※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							
到達目標	・英語で自己表現が簡潔にできるようになること							
履修上の注意事項	・「難しい」、「分からない」と言って、英語から逃げないこと！ ・和訳や答えを写すだけの消極的な学習を行わないこと！！ ・積極的に課題に取り組み、新しい文法、構文、フレーズなどをどんどん吸収していくこと！！！！							
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修	
	第1回	U1 Commute by Train(S=『Say It Now!』) ／助動詞を含む構文①(C=『コンパクト英語構文』)					プリントを用い授業内容の概略を捕らえて授業に臨む(30分) 授業後、音読等の反復練習により、知識の定着を図る(30分)	
	第2回	U2 What Are You Going to Do This Weekend?(S) ／助動詞を含む構文②(C)					プリントを用い授業内容の概略を捕らえて授業に臨む(30分) 授業後、音読等の反復練習により、知識の定着を図る(30分)	
	第3回	U3 Have You Ever Volunteered?(S) ／仮定法を用いた表現①(C)					プリントを用い授業内容の概略を捕らえて授業に臨む(30分) 授業後、音読等の反復練習により、知識の定着を図る(30分)	
	第4回	U4 Is There a Bank Near Here?(S) ／仮定法を用いた表現②(C)					プリントを用い授業内容の概略を捕らえて授業に臨む(30分) 授業後、音読等の反復練習により、知識の定着を図る(30分)	
	第5回	U5 Could I Join Your Class?(S) ／接続詞を含む表現①(C)					プリントを用い授業内容の概略を捕らえて授業に臨む(30分) 授業後、音読等の反復練習により、知識の定着を図る(30分)	
	第6回	U6 You Should Apply for the Program(S) ／接続詞を含む表現②(C)					プリントを用い授業内容の概略を捕らえて授業に臨む(30分) 授業後、音読等の反復練習により、知識の定着を図る(30分)	
	第7回	U7 What Do the Plans Include?(S) ／接続詞を含む表現③(C)					プリントを用い授業内容の概略を捕らえて授業に臨む(30分) 授業後、音読等の反復練習により、知識の定着を図る(30分)	
	第8回	U8 My New Apartment Is Safer Than My Old One(S) ／比較構文①(C)					プリントを用い授業内容の概略を捕らえて授業に臨む(30分) 授業後、音読等の反復練習により、知識の定着を図る(30分)	
	第9回	U9 Typing Is Easy for Me!(S) ／比較構文②(C)					プリントを用い授業内容の概略を捕らえて授業に臨む(30分) 授業後、音読等の反復練習により、知識の定着を図る(30分)	
	第10回	U10 I Have Many Things to Learn to(S) ／比較構文③(C)					プリントを用い授業内容の概略を捕らえて授業に臨む(30分) 授業後、音読等の反復練習により、知識の定着を図る(30分)	
	第11回	U11 If I Travel Abroad, I'll Take a Group Tour(S) ／譲歩構文(C)					プリントを用い授業内容の概略を捕らえて授業に臨む(30分) 授業後、音読等の反復練習により、知識の定着を図る(30分)	
	第12回	U12 Osamu Tezuka Is Admired by Many People(S) ／無生物主語を含む構文(C)					プリントを用い授業内容の概略を捕らえて授業に臨む(30分) 授業後、音読等の反復練習により、知識の定着を図る(30分)	
	第13回	U13 Here Is a Book Showing Various Recipes!(S) ／間接疑問・同格(C)					プリントを用い授業内容の概略を捕らえて授業に臨む(30分) 授業後、音読等の反復練習により、知識の定着を図る(30分)	
	第14回	U14 There Is a Candidate Who I Want to Support(S) ／強調・倒置(C)					プリントを用い授業内容の概略を捕らえて授業に臨む(30分) 授業後、音読等の反復練習により、知識の定着を図る(30分)	
	第15回	U15 This Semester Finished So Fast!(S) ／名詞構文・その他(C)					プリントを用い授業内容の概略を捕らえて授業に臨む(30分) 授業後、音読等の反復練習により、知識の定着を図る(30分)	
成績評価方法	期末試験 80％ 小テスト・授業内ワークシート・学習ノート等 20％							
	ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書	書名・著者(出版社)					ISBNコード		
	Say It Now! Grammar for Communication 高田智子/Diane H. Nagatomo(金星堂)					978-4-7647-4038-9		
	コンパクト英語構文 南出康世(監修)(数研出版)					978-4-410-11333-8		
参考書								
教員からのメッセージ	新しいフレーズを1つ覚えるごとに、英語のスキルは向上し、君たちの可能性もどんどん広がっていきます。英語をあまり難しく考えないで、知らない表現を1つでも多く身につけることを目標にして、日々の学習に取り組みましょう。							
教員との連絡方法	週1回(金曜日)、午前中の出講となりますので、授業の前後の時間に講師控室まで訪ねてきてください。							
実務経験のある教員								

科目コード	R5019b	授業科目名	英語 I B(表現中心)					
履修区分	必修	開講期	1年	後期	授業回数	15回	単位数	1単位
担当者	柳原 里枝子							
授業の概要	心身の健康に関する語彙を習得し、リスニング、スピーキングを中心とした活動を通して英語表現を学びます。主に、対話文のリスニングとリーディング活動によって英語表現をインプットし、スピーキング活動を通してアウトプットする練習を行います。また、「英会話」に繋げるためのコミュニケーション能力の育成を図ります。							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける							○
	②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける							—
	③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける							○
	④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける							◎
	※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							
到達目標	1. 食物や健康に関する語(句)の意味を理解したり、聞き取ったりすることができる。 2. 英語での会話を聞いて全体的な内容を理解することができる。 3. リスニング力向上につながる英語の基礎的な発音をマスターすること。							
履修上の注意事項	ペアワークやグループワークに積極的に参加してください。 課題の提出期限を守ようお願いします。 辞書を使用して予習をしておくことが望ましい。							
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修	
	第1回	授業概要					夏休みの出来事について英語で言えるように準備しておく。(60分)	
	第2回	Acute Alcohol Intoxication Can Kill You ① (Listening Activity)					対話文の内容を理解しておく。(60分)	
	第3回	Acute Alcohol Intoxication Can Kill You ② (Speaking Activity)					対話文に出てきた表現が言えるようにする。(60分)	
	第4回	Is Snoring a Bad Sign? ① (Listening Activity)					対話文の内容を理解しておく。(60分)	
	第5回	Is Snoring a Bad Sign? ② (Speaking Activity)					対話文に出てきた表現が言えるようにする。(60分)	
	第6回	Getting a Good Night's Sleep is a Challenge ① (Listening Activity)					対話文の内容を理解しておく。(60分)	
	第7回	Getting a Good Night's Sleep is a Challenge ② (Speaking Activity)					対話文に出てきた表現が言えるようにする。(60分)	
	第8回	Speaking Test					学習した英語表現を正しく発音できるようにしておく。(60分)	
	第9回	Chocolate and its Magical Power ① (Listening Activity)					対話文の内容を理解しておく。(60分)	
	第10回	Chocolate and its Magical Power ② (Speaking Activity)					対話文に出てきた表現が言えるようにする。(60分)	
	第11回	The Health Risks of Eating Processed Food ① (Listening Activity)					対話文の内容を理解しておく。(60分)	
	第12回	The Health Risks of Eating Processed Food ② (Speaking Activity)					対話文に出てきた表現が言えるようにする。(60分)	
	第13回	Is Genetically Modified Food Safe Enough? ① (Listening Activity)					対話文の内容を理解しておく。(60分)	
	第14回	Is Genetically Modified Food Safe Enough? ② (Speaking Activity)					対話文に出てきた表現が言えるようにする。(60分)	
	第15回	学習のまとめ					これまでに学習した英語表現の意味を理解し、正しく発音できるようにしておく。(60分)	
成績評価方法	①Listening & Reading Comprehension 20% ②Active Class Participation 20% ③Speaking Test 10% ④期末試験 50% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書	書名・著者(出版社)					ISBNコード		
	Better Health for Every Day Toshiaki Nishimura 他(金星堂)					978-4-7647-3983-3		
参考書								
教員からのメッセージ	語彙の意味を辞書で調べるなど、予習をしておいてください。							
教員との連絡方法	最初の授業でお知らせします。							
実務経験のある教員	中学校・高等学校・大学での外国語(英語)指導の経験を有する。							

科目コード	R5019c	授業科目名	英語ⅠB(表現中心)					
履修区分	必修	開講期	1年	後期	授業回数	15回	単位数	1単位
担当者	相原 健人							
授業の概要	読解、文法演習、語句テスト、リスニング練習を通して、英語を読み取る力、聴き取る力を高める また、読み取る力、聴き取る力に加え、自分の考えを英語で伝える、コミュニケーション能力の習得も目指す							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける							—
	②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける							—
	③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける							—
	④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける							△
	※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							
到達目標	・基本的な語句や英文法の習得 ・英語で簡単な自己表現ができるようになること							
履修上の注意事項	・「難しい」、「分からない」と言って、英語から逃げないこと！ ・和訳や答えを写すだけの消極的な学習を行わないこと！！ ・積極的に課題に取り組み、新しい文法、構文、フレーズなどをどんどん吸収していくこと！！！！							
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修	
	第1回	U1 Commute by Train					プリントを用い授業内容の概略を捕らえて授業に臨む(30分) 授業後、音読等の反復練習により、知識の定着を図る(30分)	
	第2回	U2 What Are You Going to Do This Weekend?					プリントを用い授業内容の概略を捕らえて授業に臨む(30分) 授業後、音読等の反復練習により、知識の定着を図る(30分)	
	第3回	U3 Have You Ever Volunteered?					プリントを用い授業内容の概略を捕らえて授業に臨む(30分) 授業後、音読等の反復練習により、知識の定着を図る(30分)	
	第4回	U4 Is There a Bank Near Here?					プリントを用い授業内容の概略を捕らえて授業に臨む(30分) 授業後、音読等の反復練習により、知識の定着を図る(30分)	
	第5回	U5 Could I Join Your Class?					プリントを用い授業内容の概略を捕らえて授業に臨む(30分) 授業後、音読等の反復練習により、知識の定着を図る(30分)	
	第6回	U6 You Should Apply for the Program					プリントを用い授業内容の概略を捕らえて授業に臨む(30分) 授業後、音読等の反復練習により、知識の定着を図る(30分)	
	第7回	U7 What Do the Plans Include?					プリントを用い授業内容の概略を捕らえて授業に臨む(30分) 授業後、音読等の反復練習により、知識の定着を図る(30分)	
	第8回	U8 My New Apartment Is Safer Than My Old One					プリントを用い授業内容の概略を捕らえて授業に臨む(30分) 授業後、音読等の反復練習により、知識の定着を図る(30分)	
	第9回	U9 Typing Is Easy for Me!					プリントを用い授業内容の概略を捕らえて授業に臨む(30分) 授業後、音読等の反復練習により、知識の定着を図る(30分)	
	第10回	U10 I Have Many Things to Learn					プリントを用い授業内容の概略を捕らえて授業に臨む(30分) 授業後、音読等の反復練習により、知識の定着を図る(30分)	
	第11回	U11 If I Travel Abroad, I'll Take a Group Tour					プリントを用い授業内容の概略を捕らえて授業に臨む(30分) 授業後、音読等の反復練習により、知識の定着を図る(30分)	
	第12回	U12 Osamu Tezuka Is Admired by Many People					プリントを用い授業内容の概略を捕らえて授業に臨む(30分) 授業後、音読等の反復練習により、知識の定着を図る(30分)	
	第13回	U13 Here Is a Book Showing Various Recipes!					プリントを用い授業内容の概略を捕らえて授業に臨む(30分) 授業後、音読等の反復練習により、知識の定着を図る(30分)	
	第14回	U14 There Is a Candidate Who I Want to Support					プリントを用い授業内容の概略を捕らえて授業に臨む(30分) 授業後、音読等の反復練習により、知識の定着を図る(30分)	
	第15回	U15 This Semester Finished So Fast!					プリントを用い授業内容の概略を捕らえて授業に臨む(30分) 授業後、音読等の反復練習により、知識の定着を図る(30分)	
成績評価方法	期末試験 80％ 小テスト・授業内ワークシート・学習ノート等 20％							
	ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書	書名・著者(出版社)						ISBNコード	
	Say It Now! Grammar for Communication 高田智子/Diane H. Nagatomo(金星堂)						978-4-7647-4038-9	
参考書								
教員からのメッセージ	新しいフレーズを1つ覚えるごとに、英語のスキルは向上し、君たちの可能性もどんどん広がっていきます。英語をあまり難しく考えないで、知らない表現を1つでも多く身につけることを目標にして、日々の学習に取り組みましょう。							
教員との連絡方法	週1回(金曜日)、午前中の出講となりますので、授業の前後の時間に講師控室まで訪ねてきてください。							
実務経験のある教員								

科目コード	R5020	授業科目名	コミュニケーション技法Ⅰ					
履修区分	必修	開講期	1年	前期	授業回数	8回	単位数	1単位
担当者	川畑 なみ・PT教員・OT教員							
授業の概要	建学の精神である「心技一体」に基づき、基本的な生活や集団の中における良好なコミュニケーションについて学ぶ。医療人や社会人として組織の中で職務に就くためには、社会人基礎力が必要である。本講義では、特にその基礎となるコミュニケーション、規律性、主体性などについて学修する。							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける							◎
	②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける							△
	③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける							○
	④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける							○
	※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							
到達目標	1. 集団の一員として自覚を持った行動をとることができる。 2. グループメンバーの意見を尊重しつつ積極的に意見を述べるなど、円滑なチームワークを構成できる。 3. 本授業で経験したことや学習したことについて簡潔に記録し、わかりやすく論理的に他者に説明できる。							
履修上の注意事項	対面講義形式にて実施する。講義スケジュールは掲示により通知するため、掲示板を注視すること。							
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修	
	第1回	オリエンテーション・研修前自己評価・コミュニケーション技法(石倉、他2名)					事後学修:コミュニケーションや意見集約に用いる技法について(2時間)	
	第2回	コミュニケーション技法の紹介・演習(OST、ワールドカフェ、KJ法)(石倉、他2名)					事前学修:遠隔内容の事前確認(1時間) 事後学修:演習内容の振り返り・課題作成・フィールドワークの計画(3時間)	
	第3回	グループでのフィールドワーク					事前学修:フィールドワークの計画(3時間) 事後学修:フィールドワークの記録(2時間)	
	第4回	グループでのフィールドワーク					事前学修:グループミーティング(1時間) 事後学修:フィールドワークの記録(2時間)	
	第5回	グループでのフィールドワーク					事前学修:グループミーティング(1時間) 事後学修:フィールドワークの記録(2時間)	
	第6回	グループでのフィールドワーク・発表用プレゼンテーションの作成					事前学修:グループミーティング(1時間) 事後学修:フィールドワークのまとめ(2時間) 発表資料の作成(3時間)	
	第7回	フィールドワーク発表(リハビリテーション学科全教員)					事前学修:発表練習(1時) 事後学修:発表の振り返り(2時間)	
	第8回	学園長訓話(古澤学園長)					事後学修:訓話の振り返り・レポート作成(計3時間)	
	第9回							
	第10回							
	第11回							
	第12回							
	第13回							
	第14回							
	第15回							
成績評価方法	レポートなど提出課題を集計して評価する(100%)。 ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書	書名・著者(出版社)					ISBNコード		
	講義において資料を配布することがあります。							
参考書	なし							
教員からのメッセージ	集団の中における、医療職に必要な社会人基礎能力について身につける講義です。特にコミュニケーションに関する技能を積み重ねるため、積極的な参加をしてください。また、社会人基礎能力を身につけるためにも、自己管理が基本となります。							
教員との連絡方法	別途、オフィスアワーにて対応します。							
実務経験のある教員	医療または福祉分野において実務経験がある教員が担当します。							

科目コード	R5021	授業科目名	コミュニケーション技法Ⅱ					
履修区分	必修	開講期	2年	前期	授業回数	8回	単位数	1単位
担当者	川畑 なみ・PT教員・OT教員							
授業の概要	建学の精神である「心技一体」に基づき、基本的な生活や集団の中における良好なコミュニケーションについて学ぶ。医療人や社会人として組織の中で職務に就くためには、社会人基礎力が必要である。本講義では、特にコミュニケーションにおける実行力・計画力・発信力などについて、チームワークやリーダーシップについて学修する。							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける							◎
	②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける							△
	③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける							○
	④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける							○
	※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							
到達目標	1. 集団の一員として自覚を持った行動をとることができる。 2. グループメンバーの意見を尊重しつつ積極的に意見を述べるなど、円滑なチームワークを構成できる。 3. 本授業で経験したことや学習したことについて簡潔に記録し、わかりやすく論理的に他者に説明できる。 4. 学修に関するリーダーシップをとることができる。							
履修上の注意事項	対面講義形式にて実施する。講義スケジュールは掲示により通知するため、掲示板を注視すること。							
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修	
	第1回	オリエンテーション・研修前自己評価・コミュニケーション技法(石倉、他2名)					事後学修:コミュニケーションや意見集約に用いる技法について(2時間)	
	第2回	コミュニケーション技法の紹介・演習(OST、ワールドカフェ、KJ法)(石倉、他2名)					事前学修:遠隔内容の事前確認(1時間) 事後学修:演習内容の振り返り・課題作成・フィールドワークの計画(3時間)	
	第3回	グループでのフィールドワーク					事前学修:フィールドワークの計画(3時間) 事後学修:フィールドワークの記録(2時間)	
	第4回	グループでのフィールドワーク					事前学修:グループミーティング(1時間) 事後学修:フィールドワークの記録(2時間)	
	第5回	グループでのフィールドワーク					事前学修:グループミーティング(1時間) 事後学修:フィールドワークの記録(2時間)	
	第6回	グループでのフィールドワーク・発表用プレゼンテーションの作成					事前学修:グループミーティング(1時間) 事後学修:フィールドワークのまとめ(2時間) 発表資料の作成(3時間)	
	第7回	フィールドワーク発表(リハビリテーション学科全教員)					事前学修:発表練習(1時) 事後学修:発表の振り返り(2時間)	
	第8回	学園長訓話(古澤学園長)					事後学修:訓話の振り返り・レポート作成(計3時間)	
	第9回							
	第10回							
	第11回							
	第12回							
	第13回							
	第14回							
	第15回							
成績評価方法	レポートなど提出課題を集計して評価する(100%)。 ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書	書名・著者(出版社)					ISBNコード		
	講義において資料を配布することがあります。							
参考書	なし							
教員からのメッセージ	集団の中における、医療職に必要な社会人基礎能力について身につける講義です。特にコミュニケーションに関する技能を積み重ねるため、積極的な参加をしてください。また、社会人基礎能力を身につけるためにも、自己管理が基本となります。特に2年次では、前年度の経験を活かし、1年次生に対してリーダーシップを発揮してください。							
教員との連絡方法	別途、オフィスアワーにて対応します。							
実務経験のある教員	医療または福祉分野において実務経験がある教員が担当します。							

科目コード	R5022	授業科目名	フレッシュマンSGL					
履修区分	必修	開講期	1年	前期	授業回数	8回	単位数	1単位
担当者	川畑 なみ・PT教員・OT教員							
授業の概要	少人数にグループ(Small Group)分けして、選択したテーマについてゼミナール形式で学習する。自由に選択したテーマを調べ、レポート作成し、その内容についてプレゼンテーションを行う。発表後グループで討議する。さらに、必要に応じて医療・保健・福祉の現場でのフィールドワークを行う。コミュニケーションスキルを磨いてコミュニケーション技法Ⅰ、Ⅱにつなげるように学習する							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける							◎
	②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける							○
	③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける							△
	④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける							△
	※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							
到達目標	コミュニケーションにおいて、①傾聴することができる。②感情を共感することができる。③気持ちや情報を明確に伝えることができることを目標とする。							
履修上の注意事項	ゼミにおける自分の役割をしっかりと果たすこと。挨拶、ことば使いを身につけること。アクティブに学習する。							
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修	
	第1回	オリエンテーション					各担当教員に指示された次の講義準備をする(60分)	
	第2回	テーマについてディスカッション テーマの決定を行う					各担当教員に指示された次の講義準備をする(60分)	
	第3回	テーマについて情報の収集、調査についての説明(1)					各担当教員に指示された次の講義準備をする(60分)	
	第4回	テーマについて情報の収集、調査する(主として文献から)(2)					各担当教員に指示された次の講義準備をする(60分)	
	第5回	プレゼンテーションのための資料作成(パワーポイント、レポート作成など)(1)					各担当教員に指示された次の講義準備をする(60分)	
	第6回	プレゼンテーションの資料作成(パワーポイント、レポート作成など)(2)					各担当教員に指示された次の講義準備をする(60分)	
	第7回	プレゼンテーションと討議					各担当教員に指示された次の講義準備をする(60分)	
	第8回	まとめ					各担当教員に指示された課題の作成をする(60分)	
	第9回							
	第10回	＊フィールドワークを行うこともある。						
	第11回							
	第12回							
	第13回							
	第14回							
	第15回							
成績評価方法	各課題における取り組み状況やプレゼンテーションによって評価 ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書	書名・著者(出版社)						ISBNコード	
参考書								
教員からのメッセージ								
教員との連絡方法	担当教員に確認すること							
実務経験のある教員								

科目コード	R5023	授業科目名	中国語入門					
履修区分	選択	開講期	1年	前期	授業回数	15回	単位数	1単位
担当者	范 叔如							
授業の概要	中国語の発音及び基本的な文法事項を習得し、中国語の基礎学力を養成する。 初歩的な文法を詳しく説明し、テープ・ビデオの利用により、発音をマスターする。							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける							○
	②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける							—
	③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける							△
	④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける							○
	※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							
到達目標	ローマ字による発音の方法やこつと簡単なコミュニケーションが出来るようになる。							
履修上の注意事項	積極的に授業に参加する事、必ずテキストを持参してノートを取る事、無断で欠席しない事。							
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修	
	第1回	学習の概略説明と使用テキスト・辞書の紹介。中国・中国語についての簡単な説明					中国と中国語について本やインターネットで調べて見る。(60)	
	第2回	発音1 声調、単母音と複母音					発音1のCDを聴いて、繰り返す練習する。(60)	
	第3回	発音2 子音 ①無気音と有気音					発音2 子音のCDを聴いて、繰り返す練習する。(60)	
	第4回	子音 ②そり舌音					発音2子音のCDを聴いて、繰り返す練習する。(60)	
	第5回	発音3 鼻音を伴う母音と変調					発音3 鼻音と変調、声調の組み合わせと数字のCDを聴いて、繰り返す練習する。(60)	
	第6回	簡単な挨拶表現と発音テスト					発音3の常用挨拶のCDで繰り返す練習する。発音1から常用挨拶まで全てCDで聞く(60)	
	第7回	人称代名詞、動詞述語文、形容詞述語文、副詞					第4課単語文を暗記する。(60)	
	第8回	本文、会話と「聞く、書く、話す」					本文の会話と「聞く、書く、話す」CDで練習する。(60)	
	第9回	指示代名詞と疑問詞疑問文					第5課単語文を暗記する。(60)	
	第10回	反復疑問文 存在を表す“在”					第4課から学習した文法を理解する(60)	
	第11回	本文、会話と「聞く、書く、話す」					本文の会話と「聞く、書く、話す」CDで練習する。(60)	
	第12回	「所有」を表すと連動式文					第6課単語文を暗記する。(60)	
	第13回	本文、会話と「聞く、書く、話す」					本文の会話と「聞く、書く、話す」CDで練習する。(60)	
	第14回	映像を通して中国を知る					現代中国の歴史年表などの資料を調べる(60)	
	第15回	総復習					第4課から第6課までの復習する。(60)	
成績評価方法	発音テスト20%(テストの点数)+練習問題20%(授業中の宿題の完成度)+期末60%(テストの点数) ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書	書名・著者(出版社)					ISBNコード		
	友子の北京ライフ 李志華・文南 著(白帝社)					978-4-89174-905-7		
参考書	はじめての中国語学習辞書 相原 茂 編著(朝日出版社)					978-4-25500-113-5		
教員からのメッセージ	1.テキスト附属のCDの発音を聞く事。2.本文と文法を復習する事。3.宿題をしっかりしておく事。							
教員との連絡方法	講義前後に教室か講義室にて直接質問 講義時間以外は基本的に在学していないので、上記の方法で隙を見て気軽に話しかけてください。							
実務経験のある教員	文化交流経験をいかし、異文化間のコミュニケーションの重要性について解説する。							

科目コード	R5024	授業科目名	韓国語入門					
履修区分	選択	開講期	1年	後期	授業回数	15回	単位数	1単位
担当者	李 賛任							
授業の概要	韓国語を初めて学ぶ受講生を対象に、韓国語の文字であるハングルからスタートし、ハングルが読めて書けるようにする。韓国語で自己紹介、買い物、お店での注文ができるようにする。また、語学だけではなく視聴覚教材を用いて「現代韓国事情」及び韓国の文化にも触れ、日・韓の価値観・文化の違いについても考えてみる。							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける							◎
	②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける							—
	③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける							△
	④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける							—
	※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							
到達目標	韓国の文字「ハングル」の読み・書きができるようになる。簡単なコミュニケーションができるようになる。現在の韓国の文化や韓国人の考え方を知り、異文化に対する理解を深める。							
履修上の注意事項	初めて習う文字と発音なので毎回きちんと出席すること。「携帯電話禁止」、「授業中の私語禁止」							
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修	
	第1回	韓国語の概略、ハングルの構成					韓国語の特徴に関して調べておく。(60分)	
	第2回	母音文字					ハングル文字が誕生した経由について調べておく。(60分)	
	第3回	母音・子音文字(1)					教科書pp.12-18を予習し、その単語を暗記しておく。(60分)	
	第4回	母音・子音文字(2)					教科書pp.19-23を予習し、その単語を暗記しておく。(60分)	
	第5回	終声子音(パッチム)					教科書pp.24-27を予習し、その単語を暗記しておく。(60分)	
	第6回	発音規則及び簡単な表現					教科書pp.28-29を予習し、その単語を暗記しておく。(60分)	
	第7回	挨拶表現					教科書pp.42-44の表現を教科書の音声聞きながら暗記する。(60分)	
	第8回	基本文型「～は～です」、「～が～です」					教科書pp.48-51の練習問題を解き、そこに出ている単語を暗記する。(60分)	
	第9回	自己紹介の表現					教科書p.48自己紹介文を暗記しておく。(60分)	
	第10回	買い物の際に使われる表現					教科書p.82の買い物の際に使う表現を暗記しておく。(60分)	
	第11回	DVDによる韓国の文化紹介					日韓の価値観の違いについて調べておく(60分)	
	第12回	映画の中での実際の簡単な日常会話					映画の中で聞き取れた単語の綴りを調べて暗記する。(60分)	
	第13回	注文の際に使われる表現					教科書p.116の食堂などで注文する際に使う表現を暗記しておく。(60分)	
	第14回	医療に関連する表現					体の部位を表す韓国語の単語を調べておく。(60分)	
	第15回	復習					今まで習った表現を自然な感じで言えるように練習しておく(60分)	
成績評価方法	期末試験40%、レポート20%、授業中に実施する暗記テスト40% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書	書名・著者(出版社)						ISBNコード	
	韓国語入門 朴大王・李賛任(白帝社)						978-4-86398-130-0	
参考書	ソウルスタイル 朴大王(白帝社)						978-4-86398-129-4	
教員からのメッセージ	毎回の授業後、学習した内容を復習し、文字と単語をしっかりと暗記する 習った語彙を生活の中に取り入れてできるだけ使ってみる K-POPの歌を覚えて韓国語で書いてみたり、歌ってみる 韓国のドラマを見ると、よく使われる表現は、綴りを調べて発音を暗記する							
教員との連絡方法								
実務経験のある教員								

科目コード	R5025	授業科目名	英会話					
履修区分	選択	開講期	2年	前期	授業回数	15回	単位数	1単位
担当者	Michael Geoffrey Davenport							
授業の概要	英語を学ぶことで、個々のエッジを広げ、世界に目をむける人間としての成長を助ける							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける						○	
	②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける						△	
	③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける						○	
	④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける						○	
	※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							
到達目標	幅広く、身近な基本的な英語表現を習得することを目標とする							
履修上の注意事項	まず、授業に参加すること 復習ミニテストで、英語学習を、日常化すること							
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修	
	第1回	Getting Acquainted Understanding the class objectives, classroom language, Talking about yourself					Homework and mini test	
	第2回	Where in the World Learning about different countries:- Nationalities, country names, food, landmarks, customs.					Homework and mini test	
	第3回	Where in the World Learning about different countries:- Nationalities, country names, food, landmarks, customs. Numbers. Telling time, looking at different currencies Daily routines					Homework and mini test	
	第4回	Closed Questions Yes, No questions, simple verbs, colors					Homework and mini test	
	第5回	Personal Ability Can you..? Hobbies, pastimes,					Homework and mini test	
	第6回	Open ended questions Wh questions, how, adjectives Polite register					Homework and mini test	
	第7回	The body Body parts, describing people, physical appearance					Homework and mini test	
	第8回	Health Ailments, fitness, diseases, lifestyle					Homework and mini test	
	第9回	Looking Good Clothes, accessories, shopping Emotions/feelings					Homework and mini test	
	第10回	Adverbs of frequency How often.					Homework and mini test	
	第11回	Eating Habits Food, drinks, meals, restaurants					Homework and mini test	
	第12回	Where? Places, prepositions, amenities, hometown					Homework and mini test	
	第13回	Experiences. Have you ever? Past participle, talking about experiences					Homework and mini test	
	第14回	What do they do? Jobs, duties					Homework and mini test	
	第15回	Modal verbs Must, should/shouldn't, can/can't, customs, signs					Homework and mini test	
成績評価方法	Mini review test and final test ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書	書名・著者(出版社)					ISBNコード		
参考書								
教員からのメッセージ	Review the lesson							
教員との連絡方法	Please send an email in English or in Japanese. (lssr@g.hymca.ac.jp)							
実務経験のある教員	2016年 7月～ JET PROGRAM 教員 -愛媛県越智郡上島町教育委員会 2019年11月～現在 学校法人広島YMCA学園・広島YMCA外語学院 専任講師							